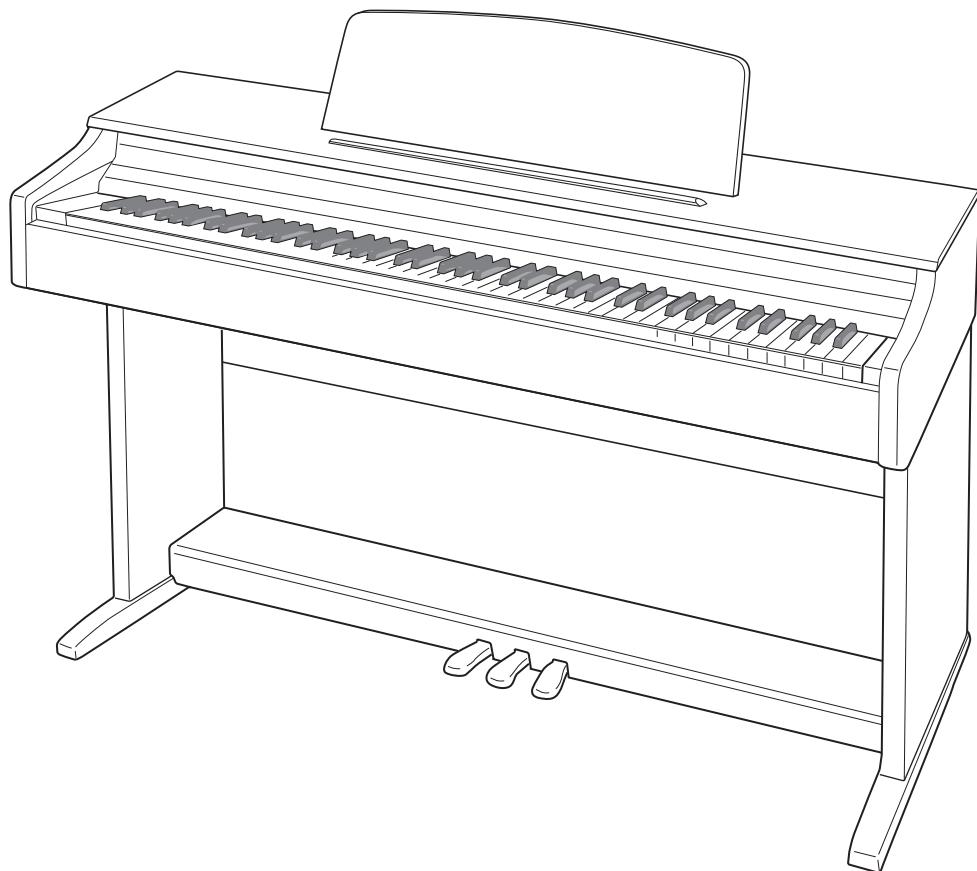


CELVIANO

AP-270

取扱説明書（詳細版）

ご購入後本機を初めてお使いになる場合、はじめに本機の基本的な操作について説明している、別冊の「取扱説明書」をご覧ください。



目次

演奏の準備	29
スタンドを組み立てる	29
コード類を接続する	31
譜面立ての立て方	32
鍵盤に付いている保護テープをはがす	32
各部の名称	3
FUNCTION ボタンについて	4
電源を切っても設定状態を保存する (オートレジューム) と操作のロック	4
電源の準備	5
電源の入れ方、切り方	5
工場出荷時の状態に戻すには	5
いろいろな音色を聴いてみましょう	6
音色を選んで弾いてみる	6
2つの音色を重ねてみる (レイヤー)	7
音色に効果をかけてみる (エフェクト)	8
ペダルを使ってみる	8
メトロノームを鳴らしてみる	9
鍵盤を左右に分けて2人で弾く (デュエット)	10
内蔵曲を活用する (コンサートプレイ、 ミュージックライブラリー、 デモ演奏)	12
デモ演奏を聴いてみる	12
コンサートプレイ (CONCERT PLAY)	12
コンサートプレイの曲を練習してみる	12
ミュージックライブラリー	14
ミュージックライブラリーの曲を 1曲ずつ聴いてみる	14
ミュージックライブラリーの曲を 練習してみる	15
演奏を録音／再生してみる (録音機能)	16
内蔵の MIDI レコーダーへ録音	16
MIDI REC ボタンの使い方	16
その他の設定	19
設定するには	19
設定に使用する鍵盤一覧	20
設定項目一覧表	21
リバーブ	21
音色選択	21
コーラス	21
ブリリアンス	21
レイヤーのバランス	21
ローワーペダル	21
ダンパーノイズ	21
レイヤーの音色選択	21
デュエットモード	21
ミュージックライブラリーの曲選択 (MUSIC LIBRARY SELECT)	22
テンポ (TEMPO)	22
拍子 (BEAT)	22
メトロノームのテンポ (METRONOME TEMPO)	22
メトロノームの拍子 (METRONOME BEAT)	22
コンサートプレイ曲の再生／停止 (CONCERT PLAY ▶/■)	22
リッスン (LISTEN)	22
レッスン (LESSON)	22
プレイ (PLAY)	22
コンサートプレイの曲選択 (SELECT + / -)	22
コンサートプレイの音量 (VOLUME + / -)	22
ミュージックライブラリー曲の音量	22
メトロノームの音量	22
音律	23
音律の基音 (ベースノート)	23
音律選択	23
鍵盤のタッチ	23
トランスポーズ	23
A 音のチューニング	23
オクターブシフト	23
鍵盤音の音量	23
USB デバイスマード	24
ローカルコントロール	24
送信チャンネル	24
操作音	24
操作のロック	24
オートレジューム	24
アプリケーションとリンクして使おう (APP 機能)	25

パソコンとの接続について 26

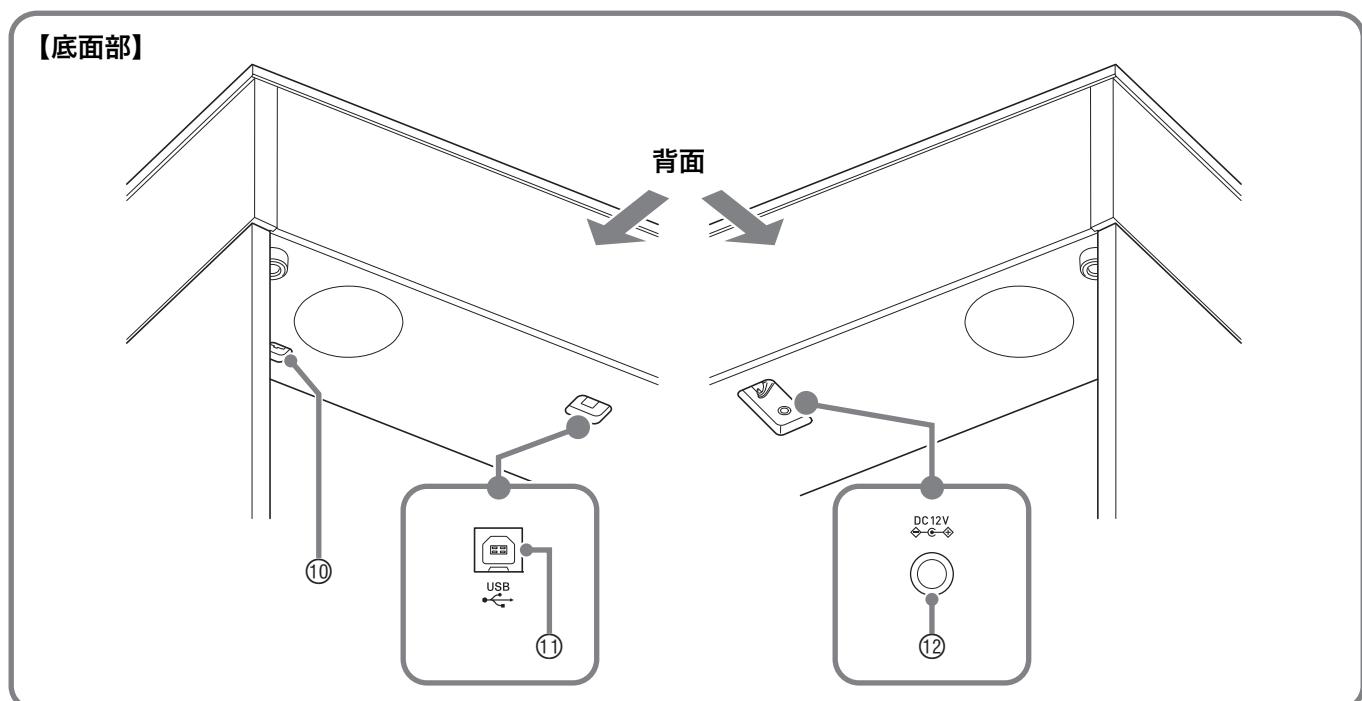
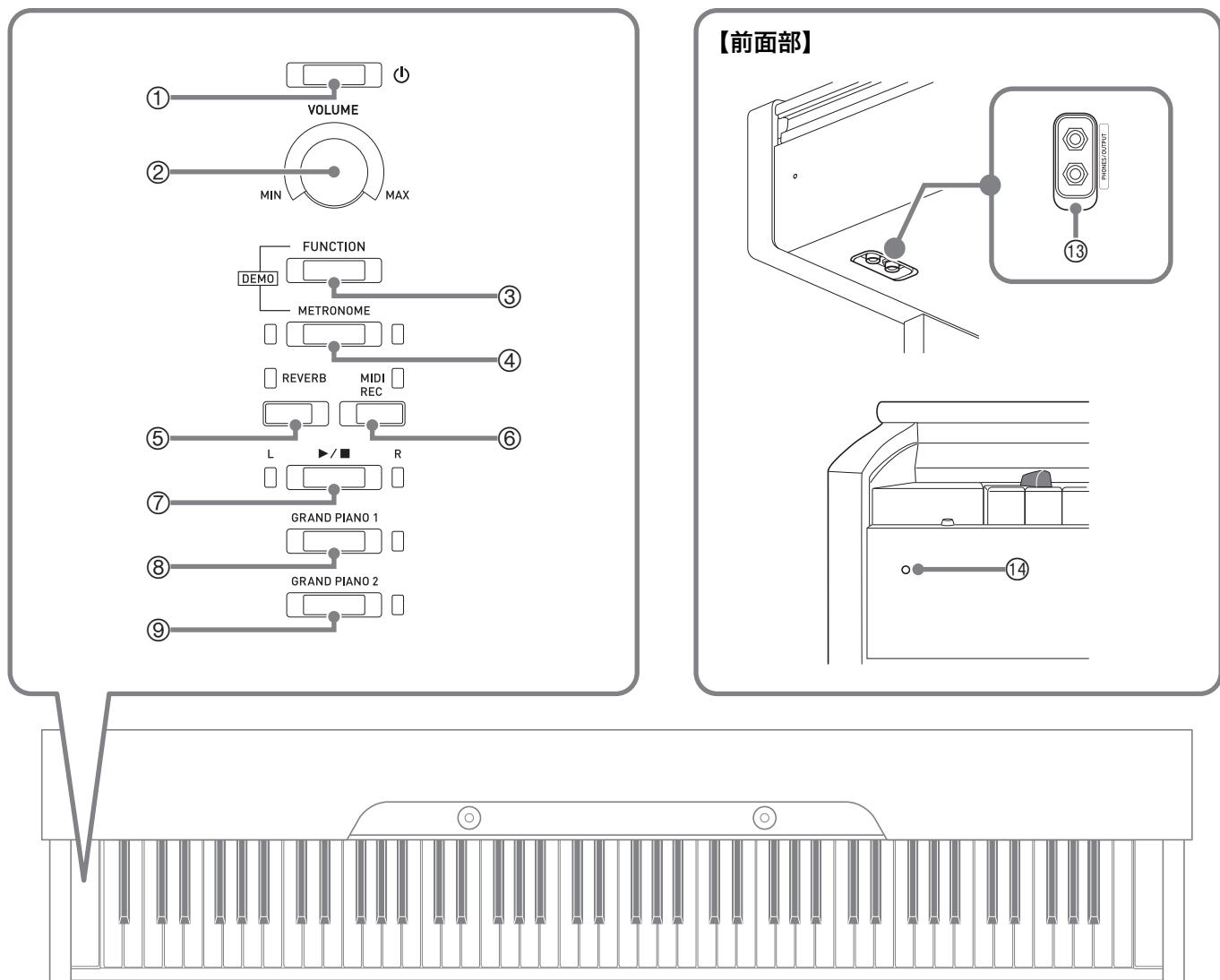
パソコンと接続する 26
MIDI 機能を使ってみる 26
本機で録音した曲をパソコンに保存する／ パソコンの曲データを本機に読み込む 27

資料 34

困ったときは 34
製品仕様 35
音色リスト 36
コンサートプレイリスト 36
ミュージックライブラリーリスト 36

MIDI インプリメンテーション・チャート

各部の名称



△注意

- 本機を演奏する際、必ず本機のスライド式鍵カバーを完全に開けるようにしてください。不完全な開け方で演奏した場合、演奏の際の振動でカバーが閉まり、本機とカバーとの間に指をはさむことがあります。危険です。

メモ

- マーク右の数字は、参照ページです。
- 各部の名称は、本書の説明文中で太字で記載されます。

① **（電源）ボタン** ② 5

ボリューム

② **VOLUME** つまみ ③ 6, 33

ファンクション

③ **FUNCTION** ボタン ④ 4～19, 27

メトロノーム

④ **METRONOME** ボタン ⑤ 9, 12, 17

リバーブ

⑤ **REVERB** ボタン ⑥ 8

MIDI 録音

⑥ **MIDI REC** ボタン ⑦ 16～18

再生/停止

⑦ **▶/■** ボタン ⑧ 14～18

⑧ **GRAND PIANO 1** ボタン ⑨ 6, 11

グランドピアノ1

⑨ **GRAND PIANO 2** ボタン ⑩ 6

グランドピアノ2

⑩ ペダルコネクター ⑪ 31

ユースピー

⑪ **USB** 端子 ⑫ 26

⑫ 電源端子 (DC12V) ⑬ 31

ホンズ/アウトプット

⑬ **PHONES/OUTPUT** 端子 ⑭ 32

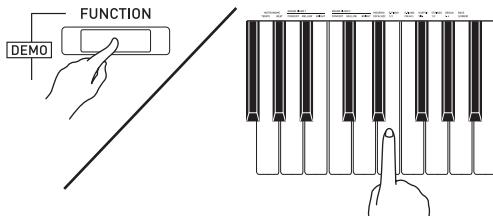
⑭ 電源ランプ

FUNCTIONボタンについて

このボタンは、他のボタンや鍵盤と組み合わせて使います。

FUNCTIONボタンを押しながら、設定項目が割り当てられているボタンや鍵盤を押します。

- 鍵盤を押すと、設定値や並び順に応じた回数の確認音（ピッ）が鳴ります。
- オフに設定したときは、確認音が長く（ピーッ）鳴ります。



メモ

- 鍵盤で設定できる内容と、操作方法については、19ページの「その他の設定」をご参照ください。

電源を切っても設定状態を保存する（オートレジューム）と操作のロック

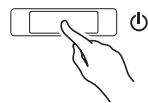
本機は、電源を切ったときに各種設定の内容を保存し、電源を入れ直したときに保存した設定にすることができます（オートレジューム）。また、誤操作を防ぐためにボタンをロックすることもできます（操作のロック）。詳しくは21～24ページの「設定項目一覧表」を参照してください。

電源の準備

スタンドの組み立てが終わったら、電源を入れます。詳しくは、29ページの「演奏の準備」を参照してください。

電源の入れ方、切り方

1. **電源ボタン**（本機の電源をコントロールするボタン、以降「**電源ボタン**」）を押して、本機の電源を入れます。



- 電源ランプが点灯し、約5秒後に使用可能となります。

2. 本機の電源を切るには、電源ランプが消灯するまで、**電源ボタン**を押し続けます。

メモ

- 電源ボタンで電源を切ったあとも、本機は微電流が流れているスタンバイ状態になっています。本機を長時間使用しないとき、あるいは落雷のおそれがあるときは、必ずACアダプターをコンセントから外してください。

オートパワーオフ機能

本機を何も操作せずに一定時間放置すると、無駄な電力消費を防ぐため自動的に電源が切れます。電源が切れるまでの時間は、約4時間です。

- 下記の操作で一時的にオートパワーオフ機能をキャンセルすることができます。

■オートパワーオフ機能をキャンセルするには

1. 本機の電源が入っている場合は、**電源ボタン**を押して、いったん電源を切ります。
2. **FUNCTIONボタン**を押しながら、**電源ボタン**を押します。



- オートパワーオフ機能がキャンセルされた状態で、電源が入ります。

メモ

- 上記の操作の後で電源を切り、**電源ボタン**だけを押して電源を入れ直すと、オートパワーオフ機能は再び有効になります。

工場出荷時の状態に戻すには

本機のデータや設定などシステムの内容をすべて初期化して、工場から出荷したときの状態に戻すことができます。

1. 本機の電源を切ります。
2. **FUNCTIONボタン**、**MIDI RECボタン**、**GRAND PIANO 2ボタン**の3つを一緒に押しながら、**電源ボタン**を押します。
3. **FUNCTIONボタン**、**MIDI RECボタン**、**GRAND PIANO 2ボタン**の3つをそのまま押し続けると**GRAND PIANO 2ランプ**、**GRAND PIANO 1ランプ**、および**Rランプ**が順に点滅し始めます。
 - 程なく点滅が停止します。
4. **FUNCTIONボタン**、**MIDI RECボタン**、**GRAND PIANO 2ボタン**を離します。

- システムの初期化をしばらく行った後に、演奏できる状態になります。

メモ

- 電源のオンオフ操作については、5ページ「電源の入れ方、切り方」をご参照ください。

いろいろな音色を聴いてみましょう

音色を選んで弾いてみる

本機には、22種類の音色があります。※1

GRAND PIANO 1			GRAND PIANO 2			MODERN/ROCK/JAZZ		E.PIANO 1/2	E.PIANO FM/60's	HARPSI./VIB. 1/2	STRINGS 1-4	ORGAN 1-4	BASS (LOWER)
CONCERT	MELLOW	BRIGHT	CONCERT	MELLOW	BRIGHT	MODERN/ROCK/JAZZ							

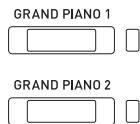
※1 音色名は、本機鍵盤部の上側に記されています。

※2 本書では、これら9音色を「ピアノ音色」、左側の6音色を「グランドピアノ音色」と呼びます。

演奏を始めるには

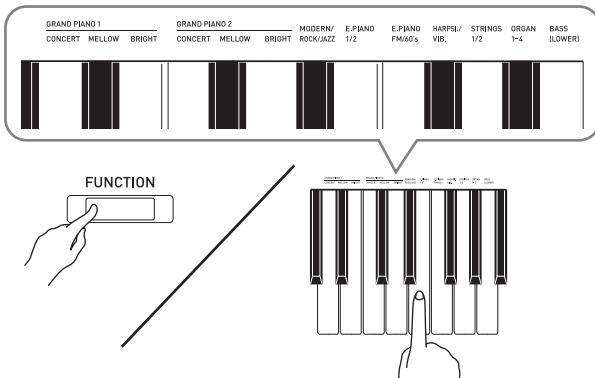
1. 音色を選びます。

- グランドピアノ1音色またはグランドピアノ2音色を選ぶには
 - GRAND PIANO 1ボタン、GRAND PIANO 2ボタンのいずれかを押します。



- 押したボタンの音色が選ばれて、ランプが点灯します。

- その他の20音色を選ぶには
 - FUNCTIONボタンを押したままの状態で、選びたい音色に対応している鍵盤を押します。



2. 音量を調節します。

- VOLUMEつまみを使って調節します。

3. 鍵盤を弾いてみましょう。



メモ

- 鍵盤によっては1つの鍵盤に複数の音色が設定されている場合があります。その場合は、FUNCTIONボタンを押したまま鍵盤を押すたびに、音色が順に切り替わり、並び順に応じた回数の確認音（ピッ）が鳴り、現在の設定をお知らせします。

例：MODERN/ROCK/JAZZが設定されている場合

確認音1回：MODERN

確認音2回：ROCK

確認音3回：JAZZ

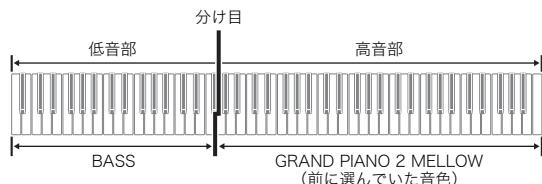
- 22種類の音色のうち、最初の6個はグランドピアノ音色です。それぞれ異なる長所を持ったおすすめの音色ですので、演奏する曲やお好みに合わせてお選びください。

音色名	特徴
コンサート (CONCERT)	ダイナミックで自然な音色変化をするフルコンサートグランドピアノ音色です。ダンパーや共鳴などピアノの様々なニュアンスを追求した音色で、どんなジャンルのピアノ演奏にも適しています。
メロー (MELLOW)	暖かみがあり落ち着いたグランドピアノ音色です。
ライト (BRIGHT)	明るくてクリアなグランドピアノ音色です。

低音部専用の音色（ベース）について

6ページの手順1で、右端のベース音色（BASS LOWER）を選んだ場合には、低音部（左側）の鍵盤だけが選んだ音色になり、高音部（右側）の鍵盤には前の音色がそのまま残ります。

- このように鍵盤が分かれて、それぞれ別々の音色で弾ける機能を「スプリット」と呼びます。



メモ

- ベース以外の音色を選ぶと、通常の1音色の状態に戻ります。
 - 録音機能のトラック2の録音では、ベース音色は選べません。
 - ダンパーペダルやソステヌートペダルを踏んだとき余韻を長くする効果が、ベース音色にもかかるように設定できます。
- 詳細は、21ページの「ローワーペダル」の項目を参照してください。

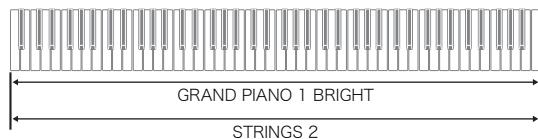
2つの音色を重ねてみる（レイヤー）

本機では、2種類の音色を重ねて演奏できます。2つの鍵盤中、先に押した鍵盤の音色がメインの音色、後に押した鍵盤の音色がレイヤー音色として設定されます。

1. **FUNCTION**ボタンを押しながら、レイヤーの音色選択鍵盤を押して、レイヤーモードをオンにします。

- 使用する鍵盤は、20ページの「設定に使用する鍵盤一覧」で確認してください。
- 鍵盤を押すたびに、オン／オフが切り替わります。

2. **FUNCTION**ボタンを押しながら、重ねたい音色に対応している鍵盤を押します。



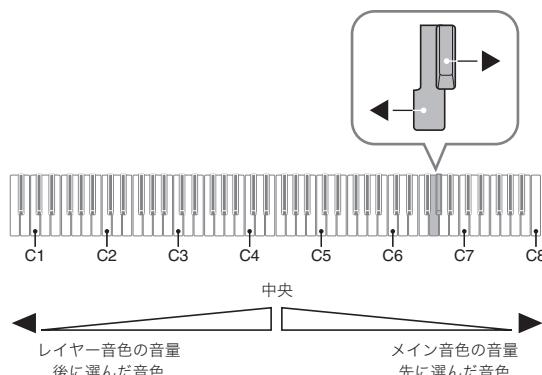
3. 元の1音色の状態に戻すには、再び**FUNCTION**ボタンを押しながら、レイヤーの音色選択鍵盤を押して、レイヤーモードをオフにします。

メモ

- BASS (LOWER) を、他の音色と重ねることはできません。
- 録音機能のトラック2の録音では、レイヤーの設定はできません。

重ねている2種類の音色の音量バランスを調整するには

1. **FUNCTION**ボタンを押したまま、以下の鍵盤を押します。



- **FUNCTION**ボタンを押したまま、上記2つの鍵盤と一緒に押すと、初期の設定になります。

音色に効果をかけてみる (エフェクト)

- リバーブ 残響の効果
コーラス 音が広がるような効果
- 使用する鍵盤は、20ページの「設定に使用する鍵盤一覧」で確認してください。

リバーブをかけるには

- REVERBボタンを押すたびに、リバーブのオン／オフが切り替わります。
 - リバーブをオンにすると、音に残響がかかります。
- リバーブがオンのときにかかるリバーブの種類を選択する

- FUNCTIONボタンを押しながら、選びたいリバーブに対応している鍵盤を押します。

- 1: ルーム
2: 小ホール
3: 大ホール
4: スタジアム

コーラスをかけるには

- FUNCTIONボタンを押したまま、コーラス鍵盤を必要な回数分押して設定値を選びます。
- コーラス鍵盤を押すごとに、下の表にある回数だけピ一という音が鳴り、現在の設定を示します。

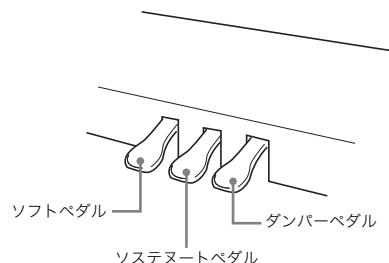
音が鳴る回数	設定
1 (長い音)	オフ
1 (短い音)	コーラス効果薄め
2	コーラス効果中位
3	コーラス効果深め
4	フランジャー (音にうねりを与える)

DSPについて

複合的な音響効果をデジタル処理で実現させる効果です。音色ごとにあらかじめかかっています。

ペダルを使ってみる

ダンパー、ソフト、ソステナートの3つのペダルがあります。



【各ペダルの働き】

● ダンパーペダル

演奏中にこのペダルを踏むと、鍵盤で弾いた音の余韻が長くなります。また、途中まで踏んで軽く効果をかける「ハーフペダル」にも対応しています。

- 7つのピアノ音色(GRAND PIANO 6音色とMODERN)を選んでいる場合は、実際のグランドピアノでダンパーペダルを使用しているときのような共鳴効果(ダンパーレゾナンス)も生み出せます。

● ソステナートペダル

このペダルを踏んだ時点で押さえている鍵盤の音だけ、ペダルを離すまで余韻が長くなる効果が得られます。

● ソフトペダル

演奏中にこのペダルを踏むと、ペダルを踏んでから鍵盤で弾いた音が弱まるだけでなく、音色が柔らかく聴こえる効果が得られます。

メモ

- ペダルを踏んでも効果がかからない場合は、ペダルコードの接続が不完全なことがあります。31ページの「コード類を接続する」の手順1を参照してください。

ダンパーノイズを鳴らさないようにするには

ダンパーノイズとは、アコースティックピアノでダンパーペダルを踏むと、ダンパーがピアノ線から離れる際に発する小さな「シャーン」という音のことです。

本機のダンパーレグナスには、このダンパーノイズが含まれています。

下記の操作で、ダンパーノイズを鳴らすか鳴らさないかを選択できます。GRAND PIANO 6音色とMODERNに設定できます。

1. FUNCTIONボタンを押したまま、ダンパーノイズ鍵盤を押します。

- 使用する鍵盤は、20ページの「設定に使用する鍵盤一覧」で確認してください。
- 押すごとに音が鳴り、設定が切り替わります。
 - ピーという音：ダンパーノイズを鳴らさない
 - ピッという短い音：ダンパーノイズを鳴らす

メトロノームを鳴らしてみる

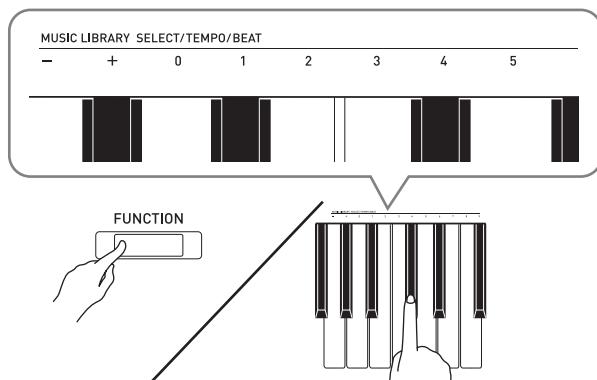
1. METRONOMEボタンを押します。

- メトロノームが鳴ります。
- メトロノームランプが拍に合わせて点滅します。

2. FUNCTIONボタンを押したまま、メトロノームの拍子鍵盤を押します。

- そのままFUNCTIONボタンを押し続けて、手順3へ進みます。

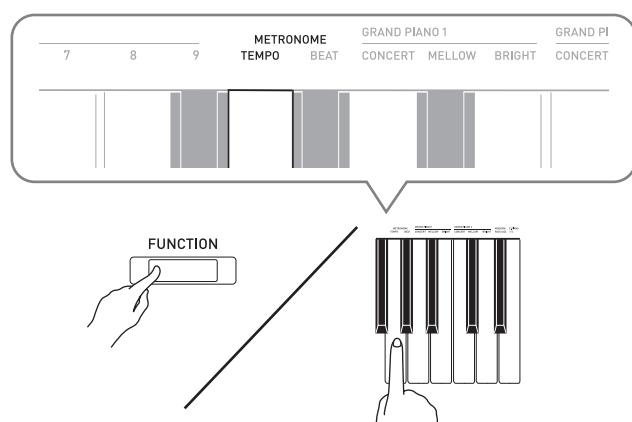
3. FUNCTIONボタンを押したまま、拍子鍵盤の0～9鍵盤を一つ押して、設定したい拍子を選びます。



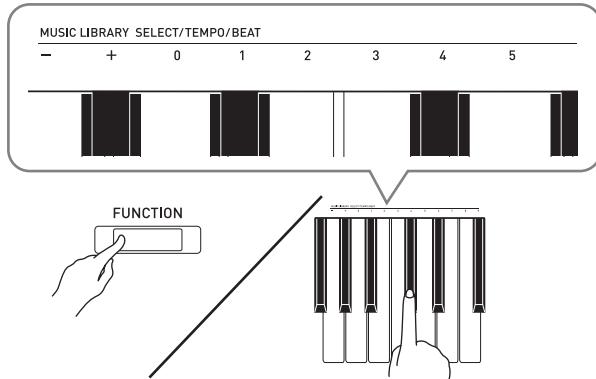
- 拍子は、0～9の中から選ぶことができます。1拍目にベル音が鳴り、残りはクリック音が鳴ります。「0」を設定すると、ベル音は鳴らずにクリック音のみが鳴ります。拍子に関わらず練習するのに便利です。

4. いったんFUNCTIONボタンを離したあと、再びFUNCTIONボタンを押したまま、メトロノームのテンポ鍵盤を押します。

- そのままFUNCTIONボタンを押し続けて、手順5へ進みます。



5. FUNCTIONボタンを押したまま、テンポ鍵盤を押してテンポ(20~255)を設定します。



- テンポ+/-鍵盤を押すと、テンポが1ずつ上下します。
- 0~9鍵盤を押して、テンポの値を直接入力することもできます。
- テンポ値は、3桁で入力します。
例：テンポ20なら、“0→2→0”と入力します。

6. メトロノームを止めるには、METRONOMEボタンを押します。

メモ

- 0~9鍵盤で拍子やテンポを入力した場合、設定範囲内の数値であれば、FUNCTIONボタンを離したときピッという音が鳴ります。設定範囲外の数値であれば、ブーという音が鳴ります。
- 上記の手順4および5にあるテンポの値の入力は、次の方法でも操作できます。
 - FUNCTIONボタンを押したまま、テンポ鍵盤を押す。
 - 手順5でテンポ+/-鍵盤と一緒に押すと、最後に選んだコンサートプレイのレッスン曲/ミュージックライブラリー曲のテンポ(録音した曲の場合、録音した時のテンポ)になります。

メトロノームの音量の設定

メトロノームが鳴っている/鳴っていないにかかわらず設定できます。

1. FUNCTIONボタンを押したまま、「メトロノームの音量」鍵盤を押して音量(0~42)を設定します。

- 使用する鍵盤は、20ページの「設定に使用する鍵盤一覧」で確認してください。
- +/-鍵盤を押すと、メトロノームの音量が1ずつ上下します。

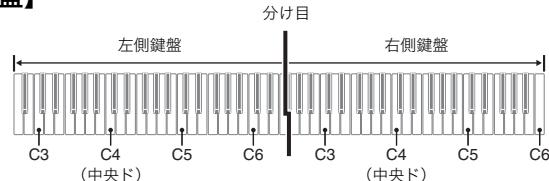
メモ

- +/-鍵盤と一緒に押すと、最初の設定(初期値)に戻ります。

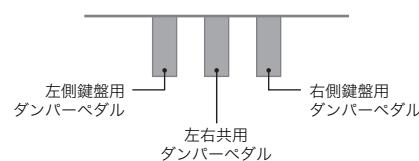
鍵盤を左右に分けて2人で弾く(デュエット)

鍵盤の中央から右側と左側で同じ音域にすることができます。両端のペダルもそれぞれ左側鍵盤用と右側鍵盤用のダンパーペダルになります。

【鍵盤】



【ペダル】



メモ

- 3本のペダルのうち、右側鍵盤用ダンパーペダルのみハーフペダルに対応します。

1. 2台ピアノで弾きたい音色を選びます。

例：GRAND PIANO 1 (BRIGHT)

2. FUNCTIONボタンを押しながら、デュエットモード鍵盤を押すごとに、デュエットモードの設定が以下のように切り替わります。

オフ

オン

パン：左側鍵盤の音は左スピーカーからのみ、右側鍵盤の音は右スピーカーからのみ出るように設定されます

重要!

- デュエットモードの設定がオン/パンのとき、オクターブシフト、トランスポーズの設定は変更できません。
- デュエットモードの設定がパンのとき、ホールシミュレーター、リバーブ、コーラスの設定は変更できません。

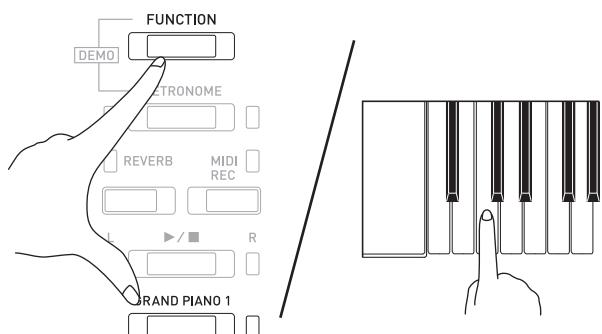
音域を変更するには

最初の設定から、左右の鍵盤それぞれの音域をオクターブ単位で変更できます。

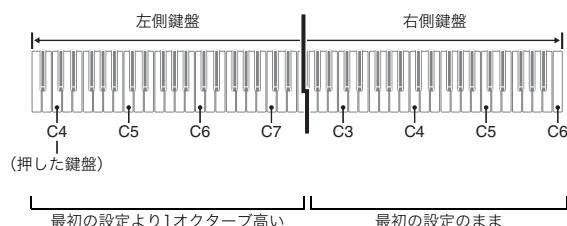
例えばピアノ曲の左手パートと右手パートを2人で分担して演奏しようとすると、最初の設定では音域が足りなくなりがちです。そのような場合に曲に合わせて音域を変更できます。

- FUNCTIONボタンとGRAND PIANO 1ボタンを2つ一緒に押したまま、左側鍵盤でC4（中央ド）の高さに設定したいC（ド）の鍵盤を押します。そのままFUNCTIONボタンとGRAND PIANO 1ボタンを押し続けて、手順2へ進みます。

C4の音が鳴って、左側鍵盤の音域が変更されます。



例：左端のC（ド）の鍵盤を押した場合は、以下の音域になります。



- FUNCTIONボタンとGRAND PIANO 1ボタンを2つ一緒に押したまま、右側鍵盤でC4（中央ド）の高さに設定したいC（ド）の鍵盤を押します。

C4の音が鳴って、右側鍵盤の音域が変更されます。

メモ

- デュエットモードの設定を解除してもう一度オンまたはパンにすると、最初の音域設定に戻ります。

内蔵曲を活用する(コンサートプレイ、ミュージックライブラリー、デモ演奏)

本機には、ピアノとオーケストラの合奏曲「コンサートプレイ」が10曲(1~10番)と、ピアノソロ曲「ミュージックライブラリー」が60曲(1~60番)内蔵されています。コンサートプレイでは、オーケストラ演奏に合わせてピアノの演奏を楽しむことができます。ミュージックライブラリーでは、ピアノの名曲の練習ができます。

☞ 重要!

- 本機では、曲を変更すると曲データの読み込みを行います。読み込み中はボタン操作ができません。また、鍵盤演奏中にこの操作を行うと発音が停止する場合があります。

デモ演奏を聴いてみる

- FUNCTIONボタンを押しながら、METRONOMEボタンを押します。
 - コンサートプレイ(リッスン曲)全曲、ミュージックライブラリー全曲の順で連続ループ再生します。
 - デモ演奏にあわせて、メロディー音色で鍵盤演奏できます。
- デモ演奏の曲を変更するには、FUNCTIONボタンを押したまま、MIDI RECボタン、またはREVERBボタンを押します。
 - 次の曲を聴くには、デモ演奏中にFUNCTIONボタンを押しながらMIDI RECボタンを押します。
 - 前の曲を聴くには、デモ演奏中にFUNCTIONボタンを押しながらREVERBボタンを押します。
 - 曲のリストは、36ページを参照してください。
- デモ演奏を止めるには、▶/■ボタンを押します。

☞ メモ

- デモ演奏中にFUNCTIONボタンを押しながらMETRONOMEボタンを押すと、コンサートプレイの曲を再生中は、ミュージックライブラリーの1曲目に移り、ミュージックライブラリーの曲を再生中には、コンサートプレイの1曲目に移ります。
- デモ演奏中、上記の曲変更と演奏停止以外の操作はできません。

コンサートプレイ (CONCERT PLAY)

オーケストラの生演奏を収録したコンサートプレイを使うと、ピアノとオーケストラの合奏が楽しめます。また、3つのステップで合奏の練習もできます。

ステップ1: リッスン

お手本に、ピアノとオーケストラの合奏を聴いてみましょう。

ステップ2: レッスン

ピアノパートを練習してみましょう。

- 曲の右手パートまたは左手パートの音を消して、自分で弾く練習ができます。

ステップ3: プレイ

オーケストラと合奏をしてみましょう。

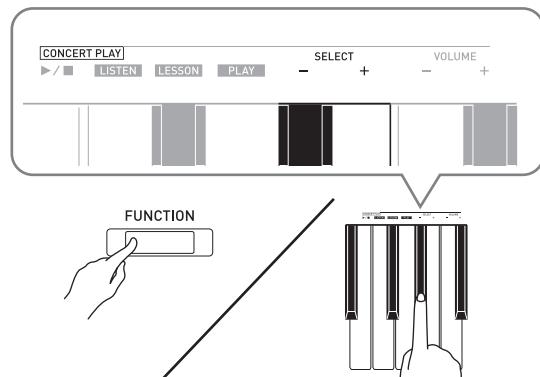
- コンサートプレイはオーケストラの生演奏を収録しているため、使われている音色は本機で選択できる音色(6ページ)と異なります。また、演奏者の息づかいや演奏ノイズも含まれています。

コンサートプレイの曲を練習してみる

演奏のお手本を聴いてみる(リッスン)

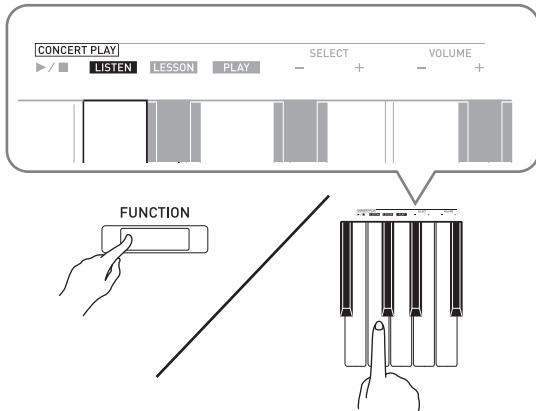
- FUNCTIONボタンを押したまま、コンサートプレイの曲選択+/-鍵盤を押して、曲番号(1~10)を選びます。

- 曲のリストは、36ページ「コンサートプレイリスト」を参照してください。



2. FUNCTIONボタンを押したまま、コンサートプレイのリッスン鍵盤を押します。

- ピアノとオーケストラの合奏が聴ける「リッスンモード」になります。
- リッスンモードではテンポを変更することはできません。



3. FUNCTIONボタンを押したまま、コンサートプレイ曲の再生／停止鍵盤を押して再生します。

- 曲を最後まで再生すると自動的に演奏が止まります。

4. 途中で演奏を止めるには、もう一度FUNCTIONボタンを押したまま、コンサートプレイ曲の再生／停止鍵盤を押します。

メモ

- 曲の音量を変更することができます。設定方法は、19ページ「その他の設定」を参照してください。

ピアノパートを練習してみる（レッスン）

準備

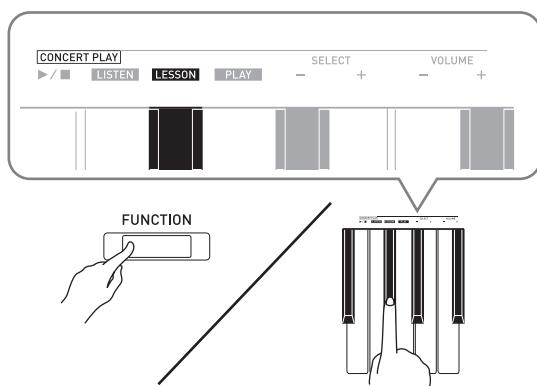
- 曲のテンポを変更できます。設定方法は、19ページ「その他の設定」を参照してください。

メモ

- 内蔵曲によっては、曲を表現するためにテンポが変化する曲があります。そのため、設定したテンポよりも再生テンポが速くなったり遅くなったりすることがあります。

1. FUNCTIONボタンを押したまま、コンサートプレイのレッスン鍵盤を押します。

- ピアノパートと簡単な伴奏が流れる「レッスンモード」になります。



2. FUNCTIONボタンを押しながら、▶/■ボタンを押して、音を消したいパートを選びます。

- ボタンを押すごとにL、Rのランプがそれぞれ点灯／消灯します。消したいパートのランプを消灯させます。



3. FUNCTIONボタンを押したまま、コンサートプレイ曲の再生／停止鍵盤を押します。

- 演奏が始まります。手順2で選んだパートは鳴りません。

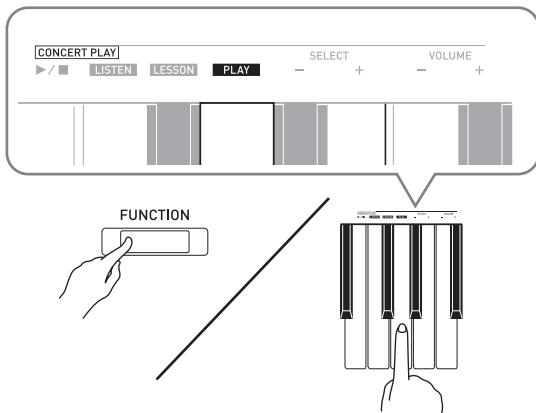
4. 音を消したパートを自分で弾きます。

5. 曲を止めるには、もう一度FUNCTIONボタンを押したまま、コンサートプレイ曲の再生／停止鍵盤を押します。

オーケストラと合奏してみる（プレイ）

1. FUNCTIONボタンを押したまま、コンサートプレイのプレイ鍵盤を押します。

- ピアノパートの音が消えてオーケストラの音だけ流れ、「プレイモード」になります。



2. FUNCTIONボタンを押したまま、コンサートプレイ曲の再生／停止鍵盤を押して再生します。

- プレイモードではテンポを変更することはできません。

3. ピアノパートを自分で弾きます。

4. 途中で演奏を止めるには、もう一度FUNCTIONボタンを押したまま、コンサートプレイ曲の再生／停止鍵盤を押します。

ミュージックライブラリー

ミュージックライブラリーを使って、ピアノの名曲の鑑賞と練習ができます。

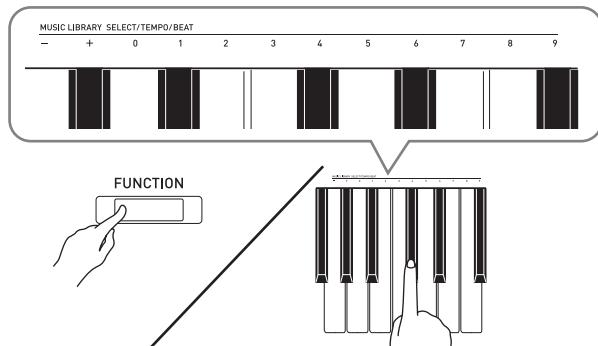
- ミュージックライブラリーの内蔵曲は60曲（1～60番）です。
 - パソコンから本機に読み込んだ曲※も、ミュージックライブラリーの61～70番の曲として再生や練習ができます。
- ※インターネットでダウンロードした曲をパソコンから転送します。詳しくは、27ページの「本機で録音した曲をパソコンに保存する／パソコンの曲データを本機に読み込む」を参照してください。

ミュージックライブラリーの曲を1曲ずつ聴いてみる

1. 36ページ「ミュージックライブラリーリスト」で、選びたい曲の番号を調べます。

2. FUNCTIONボタンを押したまま、ミュージックライブラリーの曲選択鍵盤（+、-、0～9）を押して、曲を選びます。

- +/-鍵盤を押すと、曲の番号が1ずつ上下します。
- 0～9鍵盤を押して、曲の番号を直接入力することもできます。
- 曲番号は、2桁で入力します。
例：NO.5なら、“0→5”と入力します。



3. ▶/■ボタンを押します。

- 選んだ曲の演奏が始まります。

4. 演奏を止めるには、もう一度▶/■ボタンを押します。

- 曲が最後まで演奏されると自動的に演奏が止まります。

メモ

- 手順2で+/-鍵盤を一緒に押すと、1番の曲が選ばれます。
- 演奏のテンポや曲の音量を設定できます。設定方法は、19ページの「その他の設定」を参照してください。

ミュージックライブラリーの曲を練習してみる

曲の右手パートまたは左手パートの音を消して、自分で弾く練習ができます。

メモ

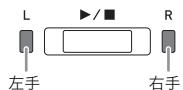
- ミュージックライブラリーには、連弾曲が入っています。連弾曲を選んだ場合は、第1ピアノ<Primo>または第2ピアノ<Secondo>の音を消して、自分で弾く練習ができます。
- 内蔵曲によっては、曲を表現するためにテンポが変化する曲があります。そのため、設定したテンポよりも再生テンポが速くなったり遅くなったりすることがあります。

準備

- 曲を選び、テンポを設定しておきます（9ページの「メトロノームを鳴らしてみる」の手順3参照）。

1. FUNCTIONボタンを押しながら、▶/■ボタンを押して、音を消したいパートを選びます。

- ボタンを押すごとにL、Rのランプがそれぞれ点灯／消灯します。消したいパートのランプを消灯させます。



2. ▶/■ボタンを押します。

- 演奏が始まります。手順1で選んだパートは鳴りません。

3. 音を消したパートを自分で弾きます。

4. 曲を止めるには、もう一度▶/■ボタンを押します。

演奏を録音／再生してみる(録音機能)

本機で演奏した内容を内蔵のMIDIレコーダーへ録音して、再生できます。

内蔵のMIDIレコーダーへ録音

トラックについて

曲は2つのトラック（録音内容が記録される場所）で構成されています。トラック1、トラック2と順番に録音していくれば、録音後に2つのトラックを1つの曲として、一度に再生することができます。



録音できる容量

- 約5,000音符まで録音できます。
- 録音できる容量が残り少なくなると、ランプの点滅が速くなります。
- 演奏の途中で録音できる容量をこえると、自動的に録音が止まります。

録音される内容

- 鍵盤演奏
- 演奏に使用した音色
- 拍子（トラック1のみ）
- テンポ設定（トラック1のみ）
- レイヤー設定（トラック1のみ）
- デュエット（トラック1のみ）
- 音律（トラック1のみ）
- 鍵盤の音量（トラック1のみ）
- コーラス（トラック1のみ）
- ブリリアンス（トラック1のみ）
- リバーブ設定（トラック1のみ）
- ダンパーノイズのオン/オフ（トラック1のみ）

録音内容の保持

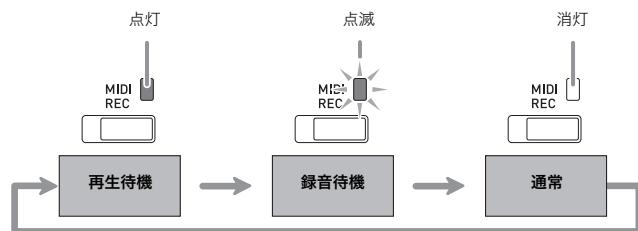
- 新しく録音した時点で、前の録音内容は消去されます。
- 録音中に電源が切れると、録音してあった内容はすべて消去されます。

重要!

- 本機の故障、修理などによる録音内容の消去により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

MIDI RECボタンの使い方

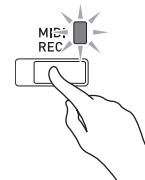
MIDI RECボタンを、1回押すごとに以下のように状態が切り替わります。



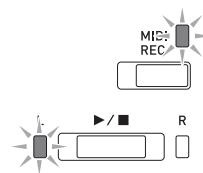
トラックを選んで録音するには

トラック1か2を選んで録音し、さらに録音したトラックの再生に合わせてもう一方のトラックに録音できます。

1. MIDI RECランプが点滅するまで、MIDI RECボタンを1回または2回押します。



- ・Lランプが点滅し、トラック1へ録音待ちの状態になります。



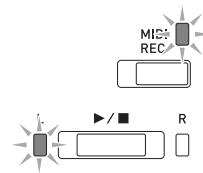
2. FUNCTIONボタンを押しながら、▶/■ボタンを押して、録音するトラックを選びます。

- ・録音したいトラックのランプを点滅させます。

トラック1: Lランプ

トラック2: Rランプ

例：トラック1を選ぶ



3. 録音に使う音色やエフェクト（トラック1のみ）を設定しておきます。

- ・音色（6ページ）

- ・エフェクト（8ページ）

メモ

- メトロノームを鳴らしたい場合は、拍子とテンポを設定して、**METRONOME**ボタンを押します。設定方法は9ページの「メトロノームを鳴らしてみる」を参照してください。

4. ▶/■ボタンを押すか演奏をはじめます。

- 自動的に録音が始まります。

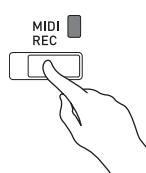
5. 録音を止めるには、▶/■ボタンを押します。

- MIDI REC**ボタンと録音したトラックのランプが、点滅から点灯に変わります。
- 録音した内容をすぐに再生したい場合は、もう一度▶/■ボタンを押します。

6. 録音や再生が終わったら、**MIDI REC**ボタンを押して、ボタンのランプを消灯させておきます。

録音済みのトラックの再生を聴きながら、もう一方のトラックに録音するには

1. **MIDI REC**ボタンを押して、ボタンのランプを点灯させます。



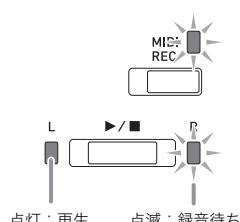
2. **FUNCTION**ボタンを押しながら、▶/■ボタンを押して、録音済みのトラックのランプを点灯させます。

3. **MIDI REC**ボタンを押して、ボタンのランプを点滅させます。

- Lランプが点滅します。

4. **FUNCTION**ボタンを押しながら、▶/■ボタンを押して、録音するトラックを選びます。

- 録音するトラックのランプを点滅させます。
- 例：録音済みのトラック1を聴きながら、トラック2へ録音する



5. 必要に応じて、録音に使う音色やエフェクト（トラック1のみ）を設定しておきます。

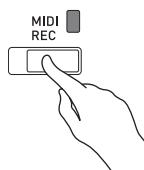
6. ▶/■ボタンを押すか演奏をはじめます。

- トラック1の再生と、トラック2への録音が同時に始まります。
- 演奏ミスなどで録音をやり直したいときは、録音中に**MIDI REC**ボタンをピッと音が鳴るまで長押ししてください。録音中のデータを破棄して、録音待機状態に戻ります。

7. 録音を止めるには、▶/■ボタンを押します。

録音した演奏を再生してみる

1. MIDI RECボタンを押して、ボタンのランプを点灯させます。



メモ

- 両方のトラックに録音済みの場合、一方のトラックの音を消して再生できます。音を消したいトラックのランプを消灯させます。

2. ▶/■ボタンを押します。

- 録音した内容が再生されます。

メモ

- 再生時は、テンポを変えることができます。
- 途中で止めるときには、もう一度▶/■ボタンを押します。

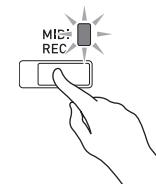
録音した内容を消去するには

録音した内容をトラック単位で消去します。

重要!

- 以下の操作を完了すると同時に、録音した内容が消去され、元に戻すことはできません。消去しようとしている内容を一度再生して、消去してもよいことをご確認の上、以下の操作を行うことをお勧めします。

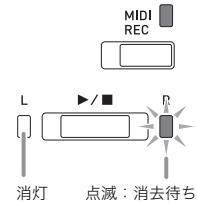
1. MIDI RECランプが点滅するまで、MIDI RECボタンを1回または2回押します。



2. FUNCTIONボタンを押しながら、▶/■ボタンを押して、消去したいトラックを選びます。

3. MIDI RECボタンを押し続けて、ボタンのランプを点灯させます。

- 手順2で選んだトラックのランプが点滅します。
例：消去するトラックにトラック2を選んだ場合



4. もう一度、FUNCTIONボタンを押しながら、▶/■ボタンを押します。

- 選んだトラックの録音内容が消去され、録音待機の状態になります。
- 操作を中止したい場合は、MIDI RECボタンを押してボタンのランプを消灯させます。

メモ

- 上記の手順3から手順4で消去を実行するまでの間、▶/■ボタン以外の操作ができません。

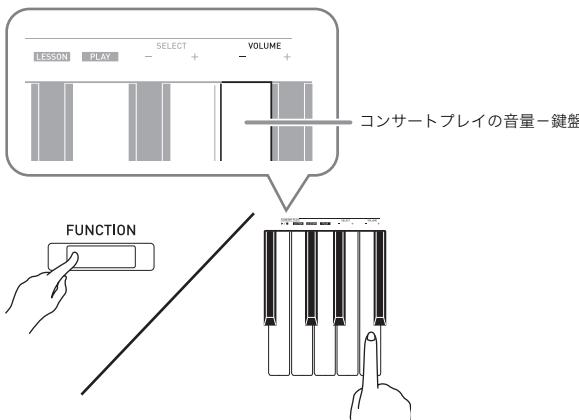
その他の設定

FUNCTIONボタンと鍵盤を使って、音色や曲（コンサートプレイ／ミュージックライブラリー）を選ぶだけでなく、音の効果や鍵盤のタッチなどのさまざまな設定ができます。

設定するには

1. 設定したい項目を21～24ページの「設定項目一覧表」から選び、内容を確認します。
2. その項目の設定に使用する鍵盤の位置を、20ページの「設定に使用する鍵盤一覧」で確認します。
3. FUNCTIONボタンを押しながら、手順2で確認した鍵盤を押して設定を行います。
 - 設定が完了すると、お知らせのための操作音が鳴ります。

例：コンサートプレイの音量を下げるには、コンサートプレイの音量－鍵盤を押します。



4. FUNCTIONボタンから指を離して、設定を終了します。

メモ

- 手順3で操作音が鳴らないようにすることもできます。21～24ページの「設定項目一覧表」の中の「⑩ 操作音」を参照してください。

鍵盤を押して設定する操作のタイプについて

設定する項目によって、鍵盤操作のタイプが異なります。操作タイプには以下の4種類があります。

タイプA：設定値を直接選ぶ。

タイプB：+/-鍵盤で、設定値を1ずつ上下させる。

- 鍵盤を押し続けると、設定値が連続して変化します。
- 2つの鍵盤と一緒に押すと、最初の設定（初期値）に戻ります。

タイプC：0～9鍵盤で設定値を入力する。

- 設定値が2桁ならば“0→2”、3桁ならば“0→2→0”と、入力します。

タイプD：1つの鍵盤で、オン・オフの切り替えや、設定値を変更する。

- 鍵盤を押すと、設定値に応じてピーという音が鳴ります。
- オフに切り替えたときは、音が長く鳴ります。

例：コーラスの効果がかかっていない（オフ）のときに「コーラス効果中位」へ設定値を変更したい場合、コーラス鍵盤を2回押します（音が2回鳴ります）。

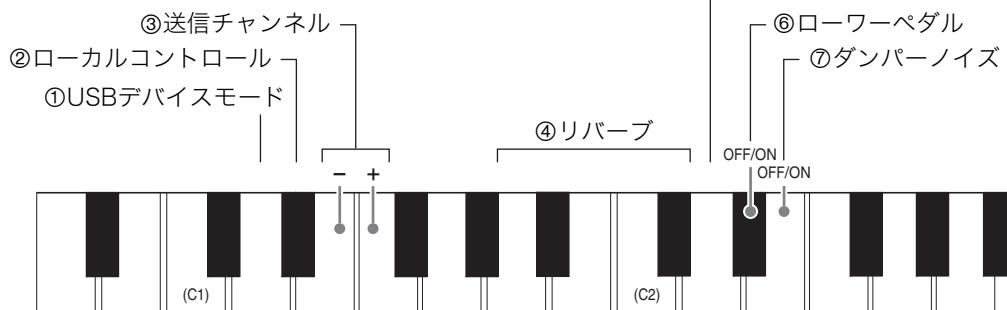
メモ

- 21～24ページの「設定項目一覧表」の中の「操作タイプ」から、設定したい項目の操作タイプを確認してください。

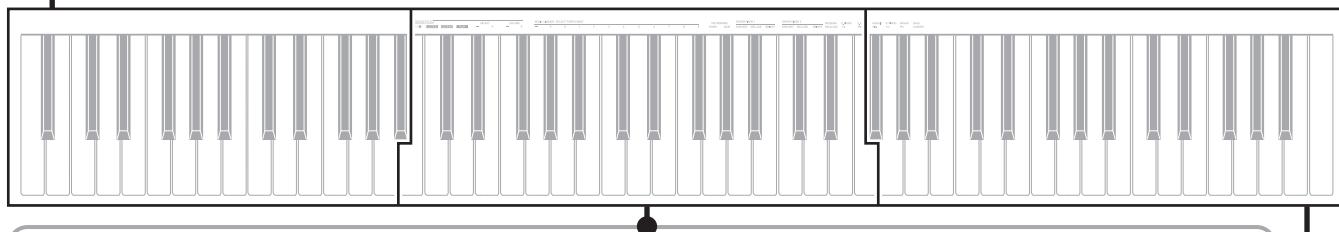
設定に使用する鍵盤一覧

- ①～⑩は21～24ページの「設定項目一覧表」での項目番号です。

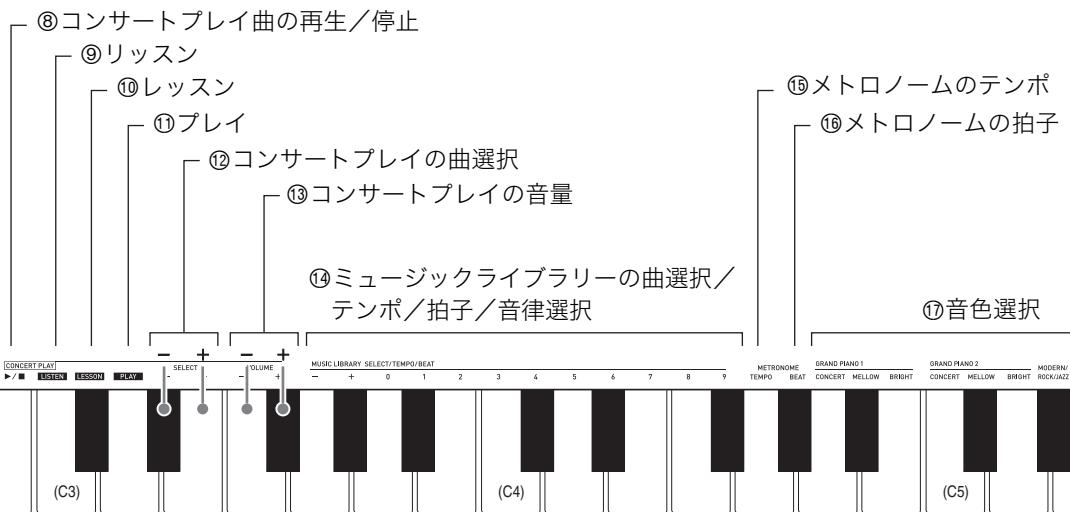
【左側鍵盤】



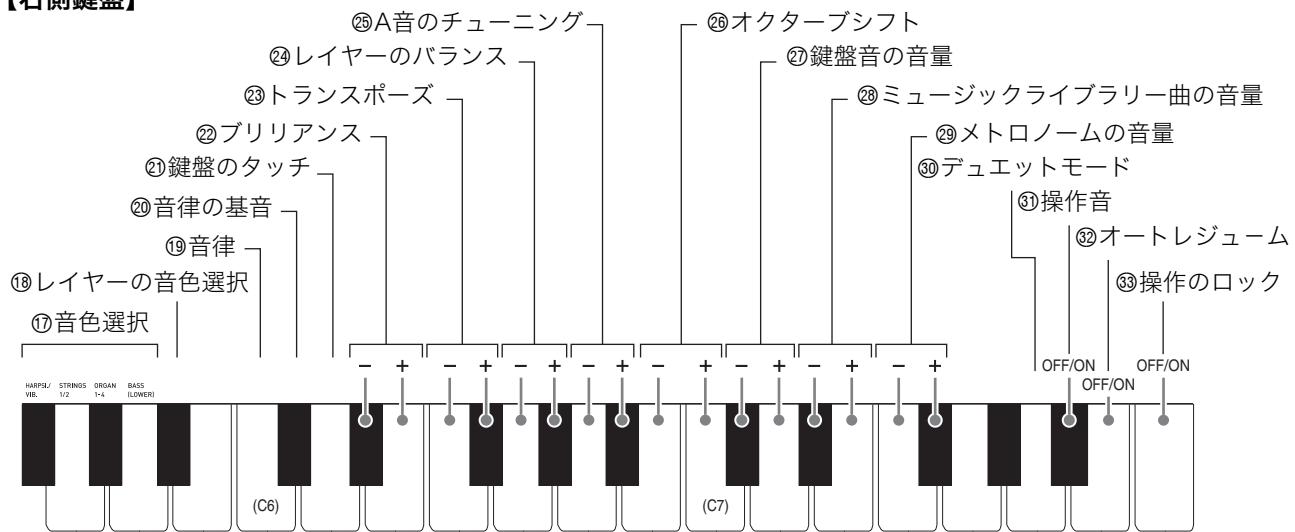
【全体図】



【中央鍵盤】



【右側鍵盤】



設定項目一覧表

■ 音色についての設定

項目	設定値	操作タイプ (19ページ参照)	内容	備考
④ リバーブ	オフ、1~4 初期値：2	A	音の残響効果を設定します。 (8ページ参照)	
⑯ 音色選択	6ページ参照 初期値：GRAND PIANO 1 (CONCERT)	A	鍵盤の音色を選びます。 (6ページ参照)	
⑤ コーラス	オフ、1~4 初期値：オフ	D	音に広がりを与える効果を設定しま す。 (8ページ参照)	
⑯ ブリリアンス	-3~0~3 初期値：0	B	音の明るさを設定します。 +にすると、明るく硬い感じの音に なります。-にすると、まろやかな 柔らかい感じの音になります。	• +/−と一緒に押すと、最初の設定 (初期値：0) に戻ります。
⑯ レイヤーのバランス	-24~0~24 初期値：-10	B	メインパートとレイヤーパートの音 量バランスを設定します。 (7ページ参照)	• +/−と一緒に押すと、最初の設定 (初期値：-10) に戻ります。
⑥ ローワーペダル	オフ、オン 初期値：オフ	D	オンにした場合、ベース音色を選択 中にダンパーべダル、またはソステ ヌートペダルを踏むと、余韻を長く する効果がベース音色にもかかりま す。 (7ページ参照)	
⑦ ダンパーノイズ	オフ、オン 初期値：オン	D	ダンパーノイズの有無を設定します。 (9ページ参照)	
⑯ レイヤーの音色選択	オフ、オン 初期値：オフ	D	レイヤーモードのオン、オフを設定 します。 (7ページ参照)	• BASS (LOWER) を、他の音色と 重ねることはできません。 • 録音機能のトラック2の録音では、 レイヤーの設定はできません。
⑯ デュエットモード	オフ、オン、パン 初期値：オフ	D	デュエットモードのオン、オフ、パ ンを設定します。 (10ページ参照)	• パンにした場合、リバーブとコ ーラスをかけることはできません。

■ 曲／メトロノームについての設定

項目	設定値	操作タイプ (19ページ参照)	内容	備考
⑭ ミュージックライブラリーの曲選択 (MUSIC LIBRARY SELECT)	1～70 初期値：1	B C	ミュージックライブラリー曲を選びます。 (14ページ参照)	• 録音機能の使用中は、設定できません。
⑮ テンポ (TEMPO)	20～255 初期値：120	B C	コンサートプレイのレッスンモード／ミュージックライブラリー曲やメトロノーム、録音機能での録音／再生などのテンポを設定します。 (9ページ参照)	• 録音機能の使用中には、+/-鍵盤と一緒に押すと“120”になります。
⑯ 拍子 (BEAT)	0～9 初期値：4	C	メトロノームの拍子を設定します。 (9ページ参照)	• コンサートプレイのリッスンモードまたはプレイモードはテンポ変更できません。
⑰ メトロノームのテンポ (METRONOME TEMPO)	—	—	メトロノームのテンポを設定したいとき、この鍵盤を押して設定モードに入ります。 テンポの値は、⑯テンポ鍵盤を押して入力します。 (9ページ参照)	• コンサートプレイのリッスンモードまたはプレイモードはテンポ変更できません。
⑯ メトロノームの拍子 (METRONOME BEAT)	—	—	メトロノームの拍子を設定したいとき、この鍵盤を押して設定モードに入ります。 拍子の値は、⑯拍子鍵盤を押して入力します。 (9ページ参照)	
⑧ コンサートプレイ曲の再生／停止 (CONCERT PLAY ▶/■)	再生、停止	D	コンサートプレイ曲が再生中の場合は停止、停止中の場合は再生します。 (12ページ参照)	• 録音機能の使用中は、設定できません。
⑨ リッスン (LISTEN)	—	A	コンサートプレイのリッスンモードに入ります。 (12ページ参照)	• 録音機能の使用中は、設定できません。
⑩ レッスン (LESSON)	—	A	コンサートプレイのレッスンモードに入ります。	• 録音機能の使用中は、設定できません。
⑪ プレイ (PLAY)	—	A	コンサートプレイのプレイモードに入ります。 (13ページ参照)	• 録音機能の使用中は、設定できません。
⑫ コンサートプレイの曲選択 (SELECT +/-)	1～10 初期値：1	B	コンサートプレイ曲を選びます。 (12ページ参照)	• 録音機能の使用中は、設定できません。
⑬ コンサートプレイの音量 (VOLUME +/-)	0～42 初期値：32	B	コンサートプレイ曲の音量を設定します。	• 録音機能の使用中は、設定できません。
⑭ ミュージックライブラリー曲の音量	0～42 初期値：42	B	ミュージックライブラリー曲の音量を設定します。	• 録音機能の使用中は設定できません。
⑯ メトロノームの音量	0～42 初期値：36	B	メトロノームの音量を設定します。 (10ページ参照)	

■ 鍵盤の設定

項目	設定値	操作タイプ (19ページ参照)	内容	備考
⑯ 音律 ⑰ 音律の基音 (ベースノート) ⑯ 音律選択	音律：0～16 ベースノート：C～B 初期値： 音律：0 (平均律) ベースノート：C	<音律選択> FUNCTION ボタンを押し続けたまま、以下の鍵盤を順に押して設定します。 1. ⑯ 音律鍵盤を押す。 2. ⑯ 音律選択鍵盤で、音律を選ぶ。 • 次にベースノートを選ぶ場合、いつたん FUNCTION ボタンを離してから、以下の手順を進めてください。 <ベースノート> FUNCTION ボタンを押し続けたまま、以下の鍵盤を順に押して設定します。 1. ⑰ 音律の基音鍵盤を押す。 2. ベースノートにしたい鍵盤を押すと音域に関係なく設定できます。	鍵盤の音律(スケール)を設定して通常の音律(平均律)以外の音律を使う音楽(インド音楽、アラビア音楽、古典音楽など)の演奏ができます。 • 「平均律」以外を選んだときは、ベースノート(曲の調の主音)を設定する必要があります。 • 音律についての詳細は、音楽専門書などを参照してください。	<音律> 0: 平均律 (Equal) 1: 純正律長調 (Pure Major) 2: 純正律短調 (Pure Minor) 3: ピタゴラス音律 (Pythagorean) 4: キルンベルガー第III法 (Kirnberger 3) 5: ヴェルクマイスター第1技法第3法 (Werckmeister) 6: ミートーン (Mean-Tone) 7: ラスト (Rast) 8: バヤティ (Bayati) 9: ヒジャズ (Hijaz) 10: サバ (Saba) 11: ダシティ (Dashti) 12: チャハルガハ (Chahargah) 13: セガ (Segah) 14: ゲジャリ・トーディ (Gurjari Todi) 15: チャンドラコウンス (Chandrakauns) 16: チャルケシ (Charukeshi)
⑯ 鍵盤のタッチ	オフ、1～3 初期値：2	D	鍵盤を弾くときの強弱感度を設定します。 設定値が小さいほど、弱めのタッチで大きな音ができます。	• 鍵盤を押すごとに、下記の回数だけピーという音が鳴り、現在の設定を示します。 1回 (長い音)：オフ 1回 (短い音)：1 2回：2 3回：3
⑰ トランスポーズ	-12～0～12 初期値：0	B	鍵盤全体の調を、半音単位で上下させることができます。	• デュエット機能のオン中は設定できません。 • 調を高く設定している場合、音色によっては最高鍵域で音の高さが不明瞭になることがあります。
⑯ A音のチューニング	415.5Hz～440.0Hz ～465.9Hz 初期値：440.0Hz	B	本機全体のピッチを、A4=440Hzから0.1Hz単位で上下させることができます。	• FUNCTION ボタンを押しながら、A音のチューニングの+と-鍵盤を同時に押すごとに、以下の値を交互に切り替えできます。 確認音1回：440.0Hz 確認音2回：442.0Hz
⑯ オクターブシフト	-2～0～2 初期値：0	B	鍵盤音域をオクターブ単位で変更します。	
⑯ 鍵盤音の音量	0～42 初期値：42	B	鍵盤で動作するパートの音量を一括して調整します。	

■ MIDI関連／その他の設定

項目	設定値	操作タイプ (19ページ参照)	内容	備考
① USBデバイスマード	MIDI、ストレージ 初期値：MIDI	D	本機とパソコンをUSBケーブルで接続すると、MIDIになります。本機で録音した曲をパソコンに保存したり、パソコンの曲データを本機に読み込む場合は、USBデバイスマードをストレージに切り替えます。(27ページ参照)	<ul style="list-style-type: none"> ストレージへの切り替えが完了すると、GRAND PIANO 1、GRAND PIANO 2、Rランプが全て点滅し、その他のランプは消灯します。 この間は、本体操作ができなくなります。 設定 (MIDI↔ストレージ) は同じ操作をするごとに切り替わります。
② ローカルコントロール	オフ、オン 初期値：オン	D	オフに設定すると、鍵盤と音源が切り離され、鍵盤を弾いても音が鳴らなくなります。	
③ 送信チャンネル	1～16 初期値：1	B	本機のMIDIメッセージを外部の機器へ送信するチャンネルを、1～16チャンネルの中から選びます。	
④ 操作音	オフ、オン 初期値：オン	D	オフに設定すると、FUNCTIONボタンを押しながら鍵盤で設定を行ったときに、操作音が鳴らなくなります。	<ul style="list-style-type: none"> 本設定は、本機の電源を切った後も保存されます。
⑤ 操作のロック	オフ、オン 初期値：オフ	D	オンに設定すると、ボタンがロックされて操作できなくなります (↓(電源)ボタンとロック解除の操作を除く)。誤ってボタンに触って設定が変わったりするのを防止できます。	
⑥ オートレジューム	オフ、オン 初期値：オフ	D	オンに設定すると、電源を切る前の各種設定内容が保存され、本機の電源を入れ直したときにその設定になります。 オフに設定すると、電源を入れ直したとき、本機全体の設定がリセットされます。	<ul style="list-style-type: none"> 以下の設定はオートレジュームがオンでも保存されません。 デュエットモード レイヤーモード 曲のLR(パート)選択 ローカルコントロール

アプリケーションとリンクして 使おう (APP 機能)

本機をスマートフォンやタブレットなどのスマートデバイスと接続し、専用アプリを使うと、スマートデバイスの画面で視覚的にピアノ本体を操作したり、内蔵曲の楽譜表示※や曲解説の閲覧ができます。

※ コンサートプレイ曲を除く。

専用アプリをダウンロードする

以下のページから専用アプリをダウンロードして、お使いのスマートデバイスにインストールしてください。

<http://web.casio.com/app/ja/>



パソコンとの接続について

パソコンと接続する

この楽器とパソコンを接続して演奏情報（MIDIデータ）の送受信ができます。楽器演奏をパソコンの音楽ソフト（市販品）へ送って記録したり、パソコンからこの楽器へデータを送って音を鳴らすことができます。

パソコンの動作環境

MIDIデータを送受信するために必要なパソコン環境は下記のとおりです。お手持ちのパソコン環境を必ず事前にご確認ください。

● 対応OS

Windows Vista ^{※1}

Windows 7 ^{※2}

Windows 8.1 ^{※3}

Windows 10 ^{※4}

macOS (OS X/Mac OS X) 10.7、10.8、10.9、10.10、10.11、10.12

※1 Windows Vista (32bit版)

※2 Windows 7 (32bit版、64bit版)

※3 Windows 8.1 (32bit版、64bit版)

※4 Windows 10 (32bit版、64bit版)

● USB端子

☞ 重要!

- 上記の対応OS以外のパソコンを接続すると、パソコンが故障する場合があります。絶対に接続しないでください。

☞ メモ

- 対応OSについての最新のサポート情報は、下記のホームページをご覧ください。

<http://casio.jp/support/emi/>

接続方法

☞ 重要!

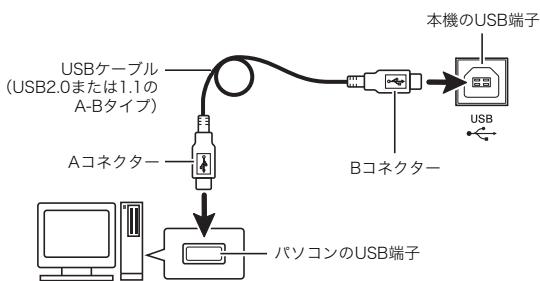
- 正しい手順で接続しないとデータの送受信ができなくなる場合があります。必ず下記の手順に従って接続してください。

1. 本機の電源を切り、パソコンを起動させておきます。

- パソコンの音楽ソフトは起動させないでください。

2. 市販のUSBケーブルで、パソコンと本機を接続します。

- ケーブルは、USB2.0または1.1のA-Bコネクタタイプを使用してください。



3. 本機の電源を入れます。

- 初めての接続では、データを送受信するために必要なドライバが自動でパソコンにインストールされます。

4. パソコンの音楽ソフト（市販品）を起動させます。

5. パソコンの音楽ソフト（市販品）の設定で、MIDIデバイスとして「CASIO USB-MIDI」を選びます。

- MIDIデバイスの選択方法については、お使いの音楽ソフトのマニュアルをご覧ください。

☞ 重要!

- パソコンの音楽ソフトを起動させる前に、必ず本機の電源を入れておいてください。

☞ メモ

- 1回接続に成功した後は、USBケーブルをつないだままでパソコンや本機の電源を入れなおすことができます。
- 本機のMIDIデータ送受信の詳しい仕様や、接続についての最新のサポート情報は、下記のホームページをご覧ください。

<http://casio.jp/support/emi/>

MIDI機能を使ってみる

MIDIについて

電子楽器同士、あるいは電子楽器とコンピューター機器との間で情報をやり取りできるように、デジタル信号の仕様や端子の形状について定めた統一規格のことです。

☞ メモ

- MIDIインプリメンテーションの詳細は、<http://casio.jp/support/emi/> を参照してください。

21~24ページの「設定項目一覧表」の中の「送信チャンネル」「ローカル コントロール」をご参照ください。

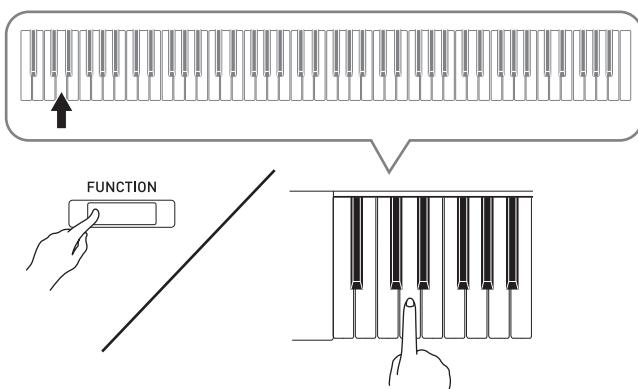
本機で録音した曲をパソコンに保存する／パソコンの曲データを本機に読み込む

本機で録音した曲（以下、「録音機能」の曲、と呼びます）をパソコンに保存したり、カシオのホームページからパソコンにダウンロードした曲を本機のユーザーソング（ミュージックライブラリー 61～70番）に読み込んで再生したりすることができます。

重要！

- データの保存や読み込みを行っているときに本機の電源が切れると、本機に記録しているデータ（録音した曲など）が、すべて消えてしまう場合があります。誤って電源を切らないようご注意ください。
- データが消えてしまった場合には、次に本機の電源を入れたとき（5ページ）、演奏できるようになるまでに通常よりも長く時間がかかります。

1. 本機とパソコンを接続します（26ページ「パソコンと接続する」手順1～3）。
2. 本機のUSBデバイスマードをストレージに切り替えます。



- FUNCTIONボタンを押しながら、USBデバイスマード鍵盤を押します。
- 切り替えが完了すると、GRAND PIANO 1、GRAND PIANO 2、ランプがすべて点滅し、その他のランプは消灯します。
- 詳しくは、21～24ページの「設定項目一覧表」の中の「USBデバイスマード」（24ページ）を参照してください。

3. パソコンの「コンピュータ※」をダブルクリックします。

※Windows Vista、Windows 7の場合

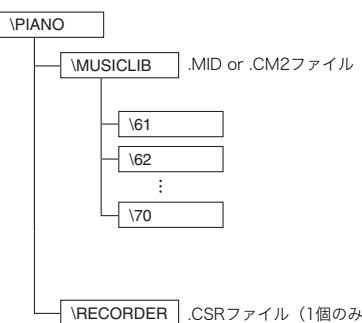
Windows 8.1、Windows 10の場合は、任意のフォルダを開き、ナビゲーションウィンドウから「PC」をクリックしてください。

- Macの場合は、デスクトップに「PIANO」が表示されるので、手順3をとばして手順4へ進んでください。
- 「リムーバブル記憶域があるデバイス」の中に、パソコンにつながった本機のメモリーが「PIANO」という名前で表示されています。

4. 「PIANO」をダブルクリックして開きます。

- 「PIANO」内には、フォルダ「MUSICLIB」と「RECORDER」が入っています。

【本機のメモリー】



- ユーザーソング（ミュージックライブラリー 61～70番）に曲を読み込むには、「MUSICLIB」内に作られているサブフォルダ「61」～「70」に曲のデータを保存します。例えば、サブフォルダ「61」に曲データを保存すると、本機はそれをミュージックライブラリー 61番の曲データとして扱います。
- 【録音機能】の曲データ (.CSR) をパソコンに保存するには、「RECORDER」フォルダの中の.CSRファイルをパソコンにコピーします。また、パソコンに保存した.CSRファイルは、「RECORDER」フォルダにコピーすることで、本機に戻すことができます。

データの種類	フォルダ名	ファイル名と拡張子
ユーザーソング	MUSICLIB	.MID : SMF形式データ (フォーマット0/1) .CM2 : カシオオリジナル形式データ
【録音機能】の曲	RECORDER	BIDREC01.CSR : カシオオリジナル形式データ

※ 保存、読み込みの操作をする前にファイル名と拡張子が上記の内容になっていることを必ずご確認ください。

【録音機能】の曲の場合、ファイルは上記の名前および拡張子に変更してください。

重要！

- Windows Vista、Windows 7、Windows 8.1、Windows 10では、拡張子が表示されないように初期設定されています。その場合は以下の手順で、拡張子を表示させます。

Windows Vista、Windows 7の場合

- 【スタート】ボタンの画像をクリックし、【コントロールパネル】、【デスクトップのカスタマイズ】、【フォルダオプション】の順にクリックします。
- 【表示】タブをクリックし、【詳細設定】の【登録されている拡張子は表示しない】チェックボックスをクリックしてチェックを外します。
- 【OK】をクリックします。

Windows 8.1、Windows 10の場合

- 任意のフォルダを開きます。
- 【表示】をクリックし、【表示/非表示】の項目にある【ファイル名拡張子】のチェックボックスをクリックしてチェックを入れます。

■ ユーザーソング（ミュージックライブラリー 61～70番）に曲を読み込むには

読み込みたい曲のファイル（.MIDまたは.CM2）を、MUSICLIB内のサブフォルダ（「61」～「70」）にコピーします。

- サブフォルダ内に、拡張子.MIDと.CM2の両ファイルがある場合、.MIDのデータが本体に読み込まれます。

■ [録音機能] の曲をパソコンに保存するには

RECORDERフォルダ内の【録音機能】の曲ファイルをパソコンの保存先フォルダにコピーします。また、以前にパソコンに保存した【録音機能】の曲ファイルをRECORDERフォルダにコピー（上書き）することで、【録音機能】の曲を保存時の状態に戻すことができます。

5. ファイルの移動が終わったら、本機のUSBデバイスマードをMIDIに戻します。

- Macの場合は、パソコンで「PIANO」フォルダの取り出し操作（ゴミ箱にドラッグアンドドロップするなど）を行ってください。
- FUNCTIONボタンを押しながら、USBデバイスマード鍵盤を押します。
- MIDIモードに戻すと、MUSICLIBおよびRECORDERフォルダのファイルがユーザーソングおよび【録音機能】の曲に読み込まれます。

☞ 重要!

- データ交換にエラーが生じた場合： GRAND PIANO 1、GRAND PIANO 2、L/Rランプがすべて点灯します。その他のランプはすべて消灯します。

■ カシオホームページのソングデータのご利用について

CASIO Music Site (<http://music.casio.co.jp/>) の以下のサービスから、ソングデータをダウンロードして本機に転送することができます。

- インターネット・ソングバンク
- インターネット楽譜ナビ

☞ メモ

- 本機では、ピアノ曲のみ使用できます。

著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者及び著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的に又は家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上の配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをなされる場合には、著作権法を遵守の上、適切なご使用を心がけていただきますよう、お願ひいたします。

演奏の準備

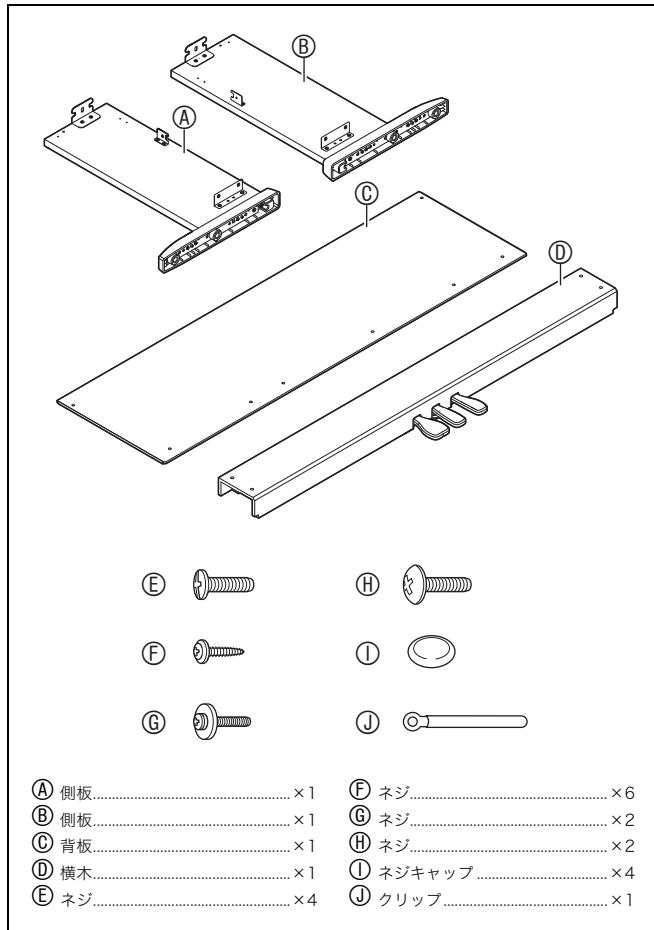
スタンドを組み立てる

準備

- 最初に以下の部品がそろっていることをご確認ください。
- 組み立て用の工具は付属しておりません。あらかじめ大きめのプラス（+）ドライバーをご用意ください。

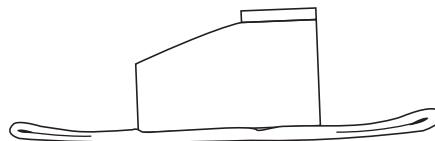
重要!

- 組み立てが終わるまで、本体の鍵盤カバーについているテープをはがさないようにしてください。組み立ての途中でカバーが開閉すると指などをはさむことがあります。危険です。
- 付属品以外のネジを使用しないでください。スタンドや楽器本体が破損する恐れがあります。
- ネジ類はビニール袋にまとめて、緩衝材内にあります。詳しくは、本体の包装に貼付けの「再梱包イラスト図」をご覧ください。
- ネジの紛失・破損時は、「修理に関するお問合せ先」に問い合わせてください。



△注意

- 組み立ては、必ず2人以上で平らな場所で行ってください。
- 組み立ての際は、手などをはさまないようにご注意ください。
- 脚ゴムが床に直接触れないように、フェルトなどの布を敷いてください。脚ゴムが直接フローリングなどの床材に触れると、床材によっては床の変色や傷付き等の原因となることがあります。
- ピアノ本体を床に置くときは、本体底面が床に直接接触しないように、柔らかいもの（毛布、座布団など）の上に置いてください。

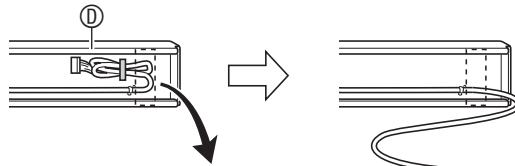


メモ

- スタンド組み立て時は、必ず以降の順番を守ってください。

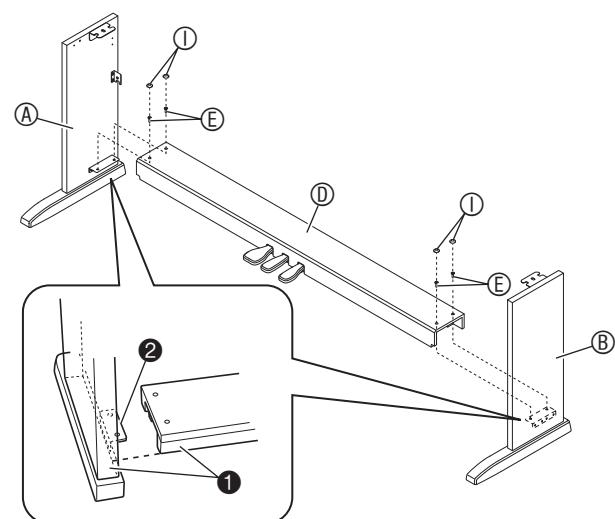
準備

- 横木①の中から、ペダルコードを引き出します。



1. 横木①を側板Ⓐ、Ⓑに取り付けます。取り付けには、ネジ⑤を4本使用します。

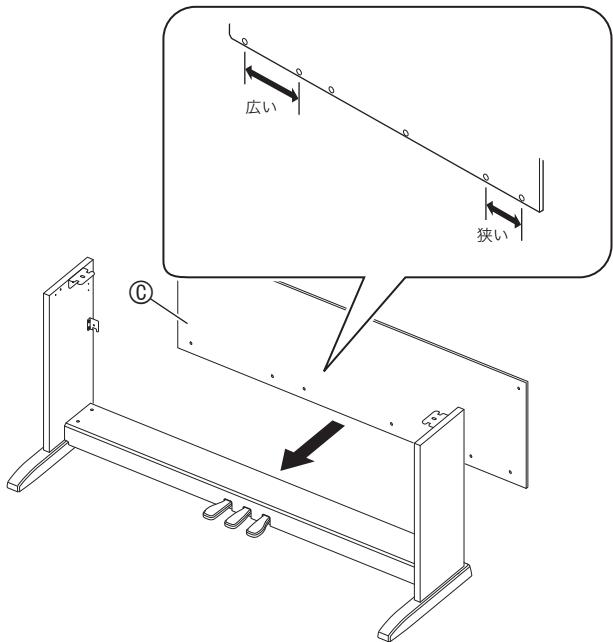
- ①の部分を取り付けるときは、横木①の溝へ側板に取り付けた金具②をはめ込みます。奥までしっかりとはめ込まれていないと、金具②とネジ⑤が正しくかみあわず、ネジ山がつぶれることができます。
- 取り付けたネジ4箇所にネジキャップ①を装着します。



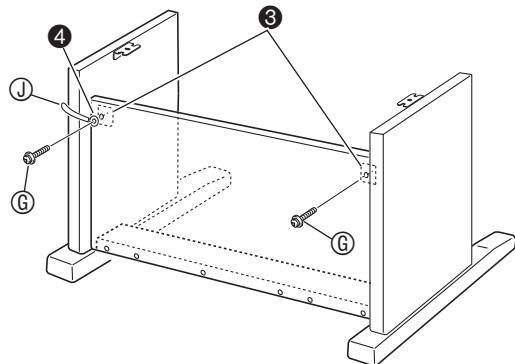
2. 背板④の左右上端を、側板⑤、⑥の金具⑦に取り付けます。取り付けには、ネジ⑧を2本使用します。

☞ 重要!

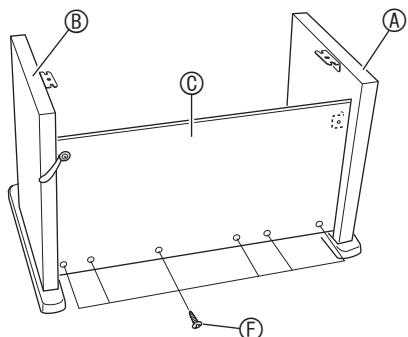
- ・背板④は取り付ける向きが決まっているので、以下の通り、方向に注意してください。
 - 背板④を取り付けるときは、背板の下部にあるネジ穴の間隔が広い方を向かって左側、狭い方を右側にしてください。



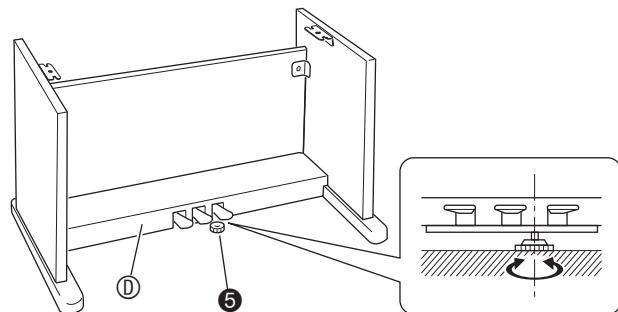
- ・④の部分を取り付けるときは、ネジ⑧をクリップ⑨の穴に通してください。



3. 背板④の下部分をネジ⑩を6本使って取り付けます。



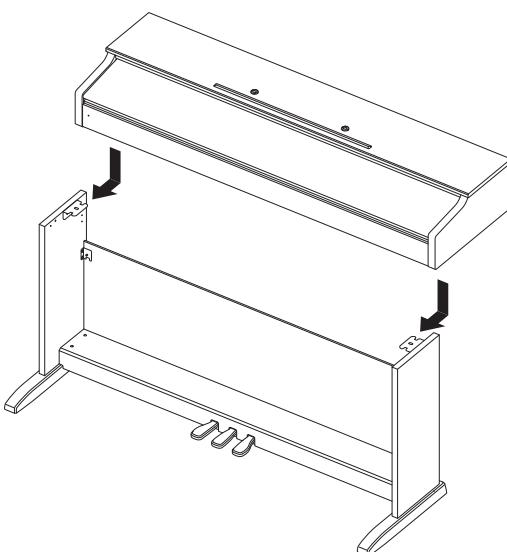
4. 高さ調節ネジ⑪で、ペダルを踏み込んだ時にスタンドの横木⑫が沈まないように、ネジ⑪の高さを調節してください。



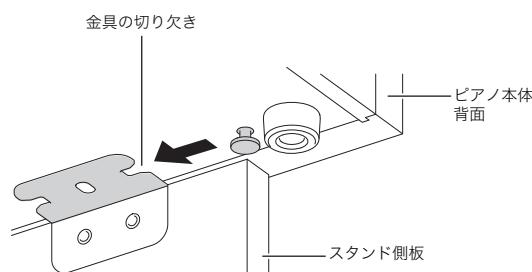
☞ 重要!

- ・高さ調節ネジ⑪を調節せずにペダル操作を行うと、横木⑫がこわれることがあります。高さ調節ネジ⑪は必ず調節してください。

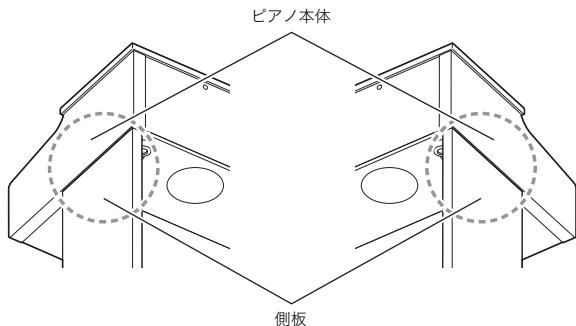
5. ピアノ本体をスタンドに載せます。



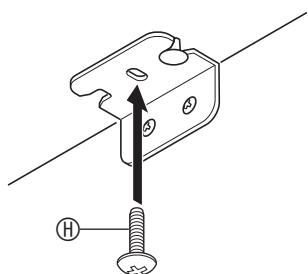
- ・このとき、ピアノ本体底面のネジが、スタンドの金具の切り欠きにはまり込むように、なるべくピアノ本体をスタンドの後側から沿うようにします。



- ピアノ本体をスタンドに載せたとき、側板との段差が左右で均等になるように位置を調整してください。



6. ネジ⑩を2本使って、ピアノ本体をスタンドにしっかりと固定します。



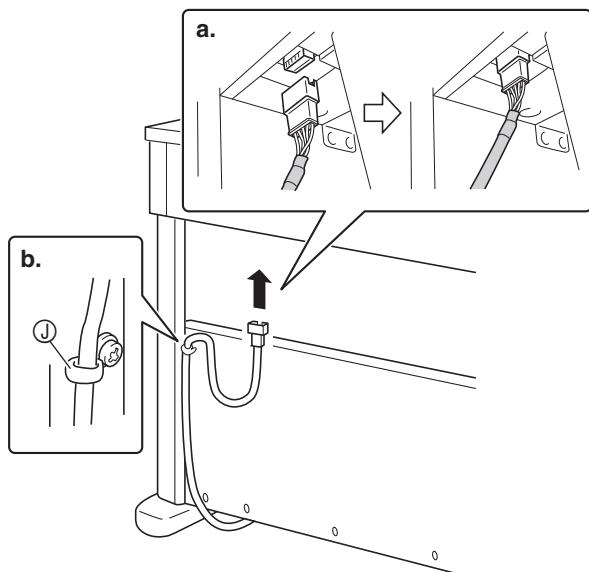
重要!

- ピアノ本体落下の危険を避けるため、必ずネジで固定してください。

コード類を接続する

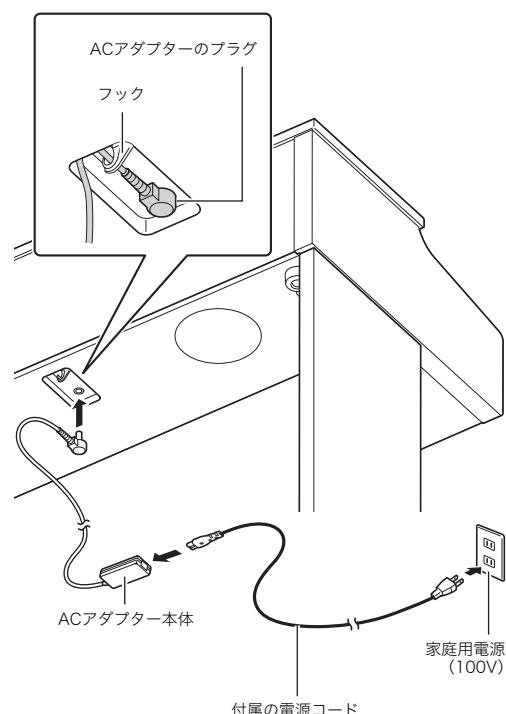
1. ペダルユニットのプラグを、下図と同じ向きにして、ピアノ本体底面にあるペダルコネクターに差し込みます。

- 根元までしっかりと差し込んでください。
- ペダルコードを側板⑩に、クリップ⑪で固定します。



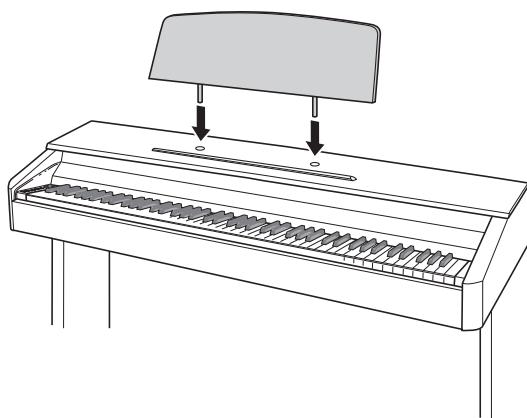
2. 本機の電源端子 (DC12V) に付属のACアダプターのプラグを挿し、ACアダプター本体と付属の電源コードを接続して、ご家庭の100V電源と接続します。

- ACアダプターのコードは、電源端子の横にあるフックにひっかけて固定してください。



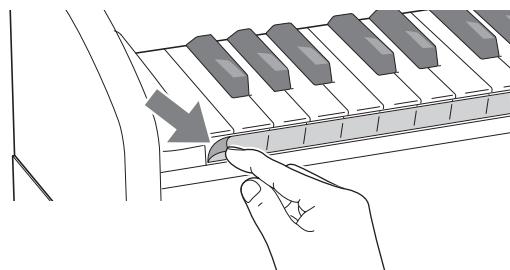
譜面立ての立て方

1. 本体の上面にある2つの穴に、譜面立ての脚を差し込みます。

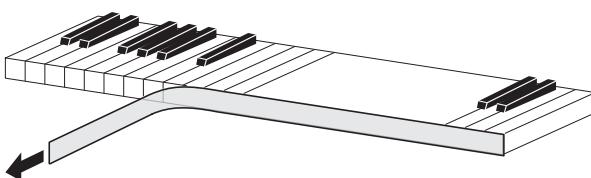


鍵盤に付いている保護テープをはがす

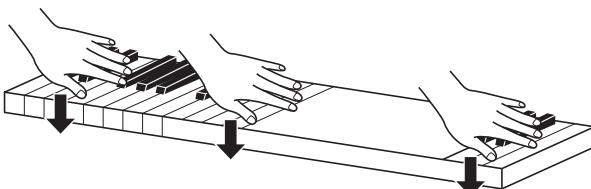
運搬の際に鍵盤を保護するため、鍵盤の手前部分に保護テープが付いています。本機をご使用になるときは、保護テープをはがしてください。



- 図のように、保護テープを手前にゆっくりはがしてください。

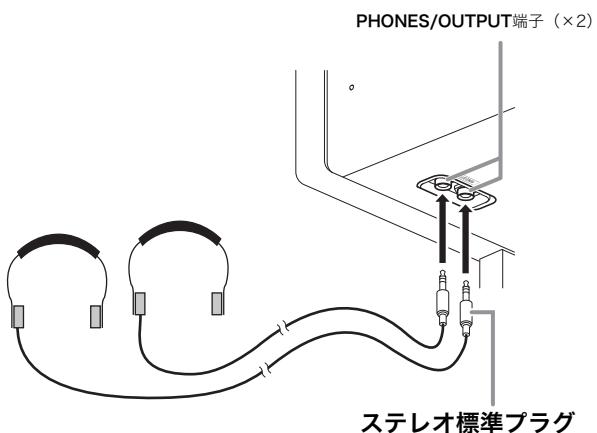


- 保護テープをはがしたあと、鍵盤が浮いてしまった場合は鍵盤を上から軽く押し込みます。



ヘッドホンを接続するには

【前面部】



別売 (CP-16) あるいは市販のヘッドホンを**PHONES/OUTPUT**端子に接続します。本機のスピーカーからは音が出なくなり、夜間なども周囲に気がねなく演奏が楽しめます。なお、耳の保護のために音量を上げすぎないようにご注意ください。

メモ

- ヘッドホンのプラグは**PHONES/OUTPUT**端子に根元までしっかりと差し込んでください。プラグが根元まで挿入されていないと、ヘッドホンの片側からしか音が出ない場合があります。
- ヘッドホンのプラグの形状が端子にあわない場合は、市販の変換プラグをご使用ください。
- ヘッドホンのコードを本機から抜くときは、変換プラグだけを本機に残さないようにご注意ください。プラグが残っていると演奏しても音が出ません。

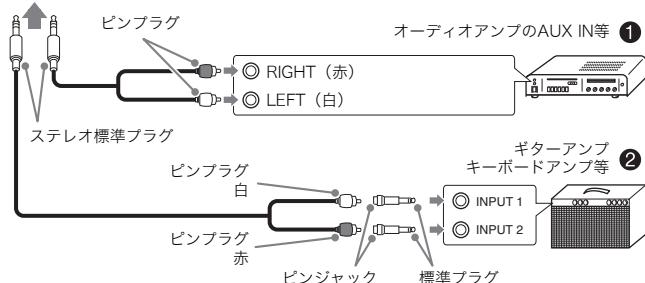
オーディオやアンプと接続するには

オーディオや楽器用アンプと接続すれば、それらの機器のスピーカーの能力に応じた、より迫力のある音量や音質で、演奏を楽しめます。

重要!

- 接続の際は、本機の**VOLUME**つまみを（接続する機器側にも音量調節があればそちらも）絞っておき、接続後、適切な音量に調節してください。
- 接続に際しては、接続機器の取扱説明書も併せてお読みください。

本機の**PHONES/OUTPUT**端子へ



オーディオ機器と接続するには（図①）

市販の接続コード（標準プラグ×1、ピンプラグ×2）で図①のように接続します。その際、片側（本機につなぐ側）がステレオ標準プラグのものをご利用ください。（モノラルプラグでは、ステレオ出力の片側分の音しか出ません。）通常はオーディオ機器のインプットセレクターを、接続した端子（AUX IN等）に切り替えます。音量は本機の**VOLUME**つまみでも調節できます。

楽器用アンプと接続するには（図②）

相手側の機器に応じて、市販の接続コード※で図②のように接続してください。

音量は本機の**VOLUME**つまみでも調節できます。

※ 本機につなぐ側：ステレオ標準プラグのもの

アンプにつなぐ側：左右両チャンネルの信号が入るようにする。（どちらが欠けても、ステレオ出力の片側分の音しか出ません。）

付属品・別売品について

付属品や別売品は、必ず本機指定のものをご使用ください。指定以外のものを使用すると、火災・感電・けがの原因となることがあります。

- 付属品の一覧と、別売品のご案内については35、35ページをご参照ください。

- 別売品については、店頭の製品カタログでより詳しい情報がご覧になります。

<http://casio.jp/emi/catalogue/>

困ったときは

こんなときは	解決方法	参照
鍵盤を押しても音が出ない。	1. VOLUMEつまみを“MAX”的方に動かす。 2. ヘッドホンまたは変換プラグをPHONES/OUTPUT端子から抜く。 3. ローカルコントロールの設定をオンにする。	☞ 6ページ ☞ 32ページ ☞ 24ページ
ピッチがずれて聴こえる。	1. トランスポーズ設定を“0”にする。または、電源を入れ直す。 2. チューニング設定を440.0Hzにする。または、電源を入れ直す。 3. オクターブシフトの設定を“0”にする。 4. 音律の設定を“0”(平均律)にする。	☞ 23ページ ☞ 23ページ ☞ 23ページ ☞ 23ページ
ペダルを踏んでも効果がかからない。	ペダルユニットのプラグの向きを確認して、本機底面のペダルコネクターにしっかり差し込む。	☞ 31ページ
音の鳴り方や効果がおかしい。電源を入れ直しても変わらない。 例: 弾き方(タッチ)を変えても音に強弱がつかない。	オートレジュームをオフにして、電源を入れ直す。	☞ 24ページ
パソコンと接続したとき、データの送受信ができない。	1. 本機とパソコンがUSBケーブルで正しく接続されているか、あるいはパソコンの音楽ソフトの設定でデバイスが正しく選択されているか確認する。 2. 本機の電源を切ってパソコンの音楽ソフトを終了させてから、本機の電源を入れてパソコンの音楽ソフトを再起動させてみる。	☞ 26ページ
電源を入れてから使用できるようになるまで、かなり時間がかかる。	電源を入れてから内蔵メモリーのフォーマット完了まで、約20秒前後の時間がかかります。使用できるようになるまでお待ちください。 また、本機とパソコンの間でデータを送受信中に電源を切らないようにしてください。	☞ 27ページ
同じ音色で鍵盤の位置によって音質や音量が若干異なる音色がある。	デジタルサンプリングという電子処理※によって発生する音域の境目で、故障ではありません。 ※ 元になっている楽器音の音域ごとの音質を再現するために、低域・中域・高域など複数の音域ごとに元の楽器音を録音し、ひとつの音色に仕上げる処理。	
ボタン操作をすると、鳴っている音が一時的に途切れたり、音質が若干変わったように聴こえる。	レイヤー機能、デュエット機能、内蔵曲の演奏、録音機能などを使用しているときは、複数のパートの音が同時に鳴っています。このようなときにボタンを操作すると、音色固有の内部エフェクト設定が自動的に変更されて、パートによっては左記のような現象が発生することがあります。故障ではありません。	
本機のデータや設定などの内容をすべて初期化する。	FUNCTIONボタンとMIDI RECボタンとGRAND PIANO 2ボタンを押しながら、電源ボタンを押して、本機の電源を入れます。	
FUNCTIONボタンと+/-鍵盤を押して設定した数値を元に戻す。	FUNCTIONボタンを押しながら、それぞれの設定の+/-鍵盤と一緒に押すと、最初の設定(初期値)に戻ります。	

製品仕様

型式	AP-270BK/AP-270BN/AP-270WE
鍵盤	88鍵、ピアノ鍵盤、タッチレスポンス付き
同時発音数	最大192音
音色	22種類 • レイヤー可（ベース音色を除く）
アコースティック シミュレーター	ダンパーレゾナンス（ダンパーノイズのオン/オフ）、ハンマーレスポンス
エフェクト	ブリリアンス（-3～0～3）、リバーブ（4種）、コーラス（4種）、DSP
メトロノーム	• 拍子：0～9 • テンポ範囲：20～255
デュエット	音域変更可（-2～2オクターブ）
コンサートプレイ	• 曲数：10曲 • 曲の音量：調節可 • パートのオン/オフ：L、R（レッスンモード時のみ） • 3モード：リッスン、レッスン、プレイ
ミュージックライブラリー	• 曲数：60曲、ダウンロード曲：10曲（1曲あたり最大約90KB、10曲で約900KB）※ ※ 表記容量は、1KB=1024バイト換算です。 • 曲の音量：調節可 • パートのオン/オフ：L、R
録音機能	MIDIレコーダー • 方式：リアルタイム録音、再生 • 曲数：1曲 • 録音トラック数：2トラック • 容量：合計約5,000音符 • 録音内容の保持：内蔵フラッシュメモリー
ペダル	ダンパー（ハーフペダル可能）、ソステナート、ソフト
その他の機能	• タッチレスポンス：3種類、オフ • トランスポーズ：2オクターブ（-12～0～+12） • チューニング：415.5Hz～440.0Hz～465.9Hz（0.1Hz単位） • 音律：平均律+16種類 • オクターブシフト：4オクターブ（-2～0～+2） • 操作のロック
MIDI	16chマルチティンバー受信
入出力端子	• PHONES/OUTPUT端子：ステレオ標準ジャック×2 • 電源端子：DC12V • USB端子：タイプB • ペダルコネクター
スピーカー	Φ12cm×2（出力8W+8W）
電源	ACアダプター AD-A12150LW使用 • オートパワーオフ機能：約4時間、キャンセル可能
消費電力	12V --- 18W
サイズ	本体+スタンド：幅141.7×奥行43.2×高さ82.1cm
質量	本体+スタンド：約36.6kg

- 改良のため、仕様およびデザインの一部を、予告なく変更することがあります。

【別売品のご案内】

商品名	品番
ヘッドホン	CP-16
イス	CB-5 CB-7 CB-30

カシオ電子楽器取扱店で購入可能。

- 店頭のカシオ電子キーボードカタログでより詳しい情報がご覧になれます。
<http://casio.jp/emi/catalogue>

音色リスト

音色名		プログラムチェンジ	バンクセレクト MSB
GRAND PIANO 1	CONCERT	0	0
	MELLOW	1	0
	BRIGHT	2	0
GRAND PIANO 2	CONCERT	3	0
	MELLOW	4	0
	BRIGHT	5	0
MODERN PIANO		6	0
ROCK PIANO		7	0
JAZZ PIANO		8	0
ELEC.PIANO 1		9	0
ELEC.PIANO 2		10	0
FM E.PIANO		11	0
60'S E.PIANO		12	0
HARPSICHORD		13	0
VIBRAPHONE		14	0
STRINGS 1		15	0
STRINGS 2		16	0
ORGAN 1 (PIPE ORGAN)		17	0
ORGAN 2 (JAZZ ORGAN)		18	0
ORGAN 3 (ELEC.ORGAN 1)		19	0
ORGAN 4 (ELEC.ORGAN 2)		20	0
BASS(LOWER)		21	0

コンサートプレイリスト

選択NO.	曲名
1	ジュ・トゥ・ヴ
2	モルダウ
3	カノン
4	展覧会の絵 「プロムナード」
5	ピアノコンチェルトNo.20 K.466 第2楽章
6	だったん人の踊り
7	ピアノソナタ K.331 第1楽章
8	ヴァイオリン協奏曲 第1楽章
9	主よ、人の望みの喜びよ
10	ヘ調のメロディー

ミュージックライブラリーリスト

選択NO.	曲名
01	ノクターン 作品9の2
02	幻想即興曲 作品6 6
03	エチュード 作品10の3 <別れの曲>
04	エチュード 作品10の5 <黒鍵>
05	エチュード 作品10の12 <革命>
06	エチュード 作品25の9 <蝶々>
07	プレリュード 作品28の7
08	ワルツ 作品64の1 <小犬のワルツ>
09	ワルツ 作品64の2
10	楽興の時 第3番
11	即興曲 作品90の2
12	軍隊行進曲 第1番 (連弾)
13	春の歌 「無言歌 第5集」より
14	楽しき農夫 「ユーティ・アルバム」より
15	見知らぬ国と人々について 「子供の情景」より
16	トロイメライ 「子供の情景」より
17	タンブラン
18	メヌエット BWV Anh.114 「アンナ・マグダレーナ・バッハのクラヴィーア小曲集」より
19	インヴェンション 第1番 BWV 772
20	インヴェンション 第8番 BWV 779
21	インヴェンション 第13番 BWV 784
22	プレリュード 第1番 BWV 846 「平均律クラヴィーア曲集 第1巻」より
23	かっこう
24	ガボット
25	ソナチネ 作品36の1 第1楽章
26	ソナチネ 作品20の1 第1楽章
27	ソナタ K.545 第1楽章
28	ソナタ K.331 第3楽章 <トルコ行進曲>
29	ロンド K.485
30	エリーゼのために
31	トルコ行進曲
32	ソナタ 作品13 <悲愴> 第1楽章
33	ソナタ 作品13 <悲愴> 第2楽章
34	ソナタ 作品13 <悲愴> 第3楽章
35	ソナタ 作品27の2 <月光> 第1楽章
36	ラブソディ 第2番
37	ワルツ 作品39の15 (連弾)
38	愛の夢 第3番
39	花の歌
40	乙女の祈り
41	クシコス・ポスト
42	ユーモスク 作品101の7
43	メロディー 「叙情小曲集 第2集」より
44	シシリエンヌ 作品78
45	子守唄 「ドリー組曲」より (連弾)
46	アラベスク 第1番
47	亜麻色の髪の乙女 「前奏曲集」より
48	バスビエ 「ベルガマスク組曲」より
49	ジムノペディ 第1番
50	ジュ・トゥ・ヴ
51	愛の挨拶
52	エンターテイナー
53	メーブル・リーフ・ラグ
54	アラベスク 「25の練習曲 作品100」より
55	スティリアンヌ 「25の練習曲 作品100」より
56	アヴェ・マリア 「25の練習曲 作品100」より
57	帰途 「25の練習曲 作品100」より
58	貴婦人の乗馬 「25の練習曲 作品100」より
59	第13番 「30番練習曲 作品849」より
60	第26番 「30番練習曲 作品849」より

MIDI インプリメンテーション・チャート

ファンクション	送 信	受 信	備 考
ベース・シック チャネル	電源ON時 設定可能範囲 1 ~ 16	1 ~ 16 1 ~ 16	
モード	電源ON時 メッセージ 代 用 モード3 X *****	モード3 X *****	
ノート ナンバー:	音 域 0 ~ 127 *****	0 ~ 127 0 ~ 127*1	*1: 音色[による
ペロシティ	ノート・オン ノート・オフ ○ 9nH v = 1 ~ 127 × 8nH v = 64	○ 9nH v = 1 ~ 127 × 9nH v = 0, 8nH v =**	**/[は関係なし
アフター タッチ	キー別 チャンネル別 X X	X ○	
ピッヂ・ベンド	×	○	
コントロール チェンジ	0.32 1 5 6, 38 7 10 16 17 18 19 64 65	○×××○○×××××○×	パンクセレクト モジユーレーション ボリューム・トライム データエンドリーリー・LSB, MSB *2 パン エフエフェクション DSP[バラメータ-0]*2 DSP[バラメータ-1]*2 DSP[バラメータ-2]*2 DSP[バラメータ-3]*2 ダンパー ボルタメントスイッチ

CASIO®

カシオ計算機株式会社
〒151-8543 東京都渋谷区本町1-6-2

MA1709-D

© 2017 CASIO COMPUTER CO., LTD.